

飯南町教育環境基本計画  
(素案)

(令和7年2月時点)

飯南町 教育委員会



# 目次

## 【本編】

### I 計画策定にあたって

1 飯南町教育環境基本計画策定の趣旨と目的 .....	1
2 教育環境基本計画の位置づけ .....	2

### II 飯南町の教育

1 飯南町の教育方針 .....	3
1.1 これからの時代に求められる教育環境 .....	3
1.2 第3次飯南町総合振興計画における教育政策(飯南町がめざす教育環境) .....	3
1.3 飯南町教育大綱 .....	5
1.4 飯南高校の教育方針 .....	7
2 飯南町ならではの魅力ある教育(飯南町教育環境基本方針(答申)より) .....	9
2.1 保小中高一貫教育を柱とした教育 .....	9
2.2 地域ぐるみの子育て環境の充実 .....	11
2.3 一人ひとりが輝く人づくり .....	12
3 飯南町の学校と地域における課題 .....	13
3.1 人口の維持 .....	13
3.2 児童・生徒の確保 .....	13
3.3 教育環境の変化への対応 .....	13
3.4 学校施設の維持管理 .....	14
3.5 飯南高校の生徒の確保 .....	14
3.6 飯南町への定住意向の醸成 .....	14
3.7 地域とのつながり .....	14

### III 小中学校の適正規模・適正配置計画

1 飯南町における小中学校の適正規模・適正配置計画 .....	15
1.1 小・中学校の適正規模と配置の理念(飯南町教育環境基本方針(答申)より) .....	15
1.2 再編に向けた考え方 .....	15
1.3 小学校の再編計画 .....	16
1.4 中学校の再編計画 .....	17
1.5 町の財政への影響 .....	19
2 残された課題と今後の計画 .....	20
2.1 今後の進め方 .....	20
2.2 残された課題 .....	20

## 【資料編】

1 飯南町の現状と課題 .....	1
1.1 人口動態 .....	1
1.2 移住・定住の状況 .....	3
2 飯南町立小中学校の現状と教育環境の課題 .....	6
2.1 町内の小中学校の配置状況、児童・生徒数 .....	6
2.2 児童・生徒数の推移と今後の見込み .....	8
2.3 学習状況・学習環境 .....	13
2.4 学校施設の状況 .....	15
2.5 スクールバスの状況 .....	19
2.6 志々小学校耐震診断 .....	21
2.7 飯南高校の状況 .....	22
2.8 中高生の定住意向 .....	24
2.9 地域と学校をつなぐ .....	27
3 意見収集 .....	33
3.1 中学校及び高等学校における意見収集 .....	33
3.2 町政座談会における意見収集 .....	39

# I 計画策定にあたって

---

## 1 飯南町教育環境基本計画策定の趣旨と目的

飯南町では飯南町総合振興計画の理念に基づき、令和3(2021)年に飯南町教育大綱を策定しました。大綱では基本理念を「ふるさと飯南の学びを原点に一人ひとりが輝く人づくり」と定め、基本方針として「①魅力ある飯南の学びづくり」「②地域で育む教育環境づくり」「③一人一人が輝く人づくり」の3つを掲げています。この大綱を基に生命地域の未来を創る人づくりを目指し、保小中高一貫教育や生命地域教育、飯南高校の魅力化、ICT 教育の推進、社会教育の充実などに力を注いできました。

しかしながら、依然として人口減少と少子化に歯止めがかからない状況が続いており、今後の子育てや教育環境の充実、学校施設の老朽化への対応など様々な課題が生じています。

こうしたことから、飯南町にふさわしい教育環境の実現に向けて、今後の教育や学校のあり方などについて検討するため、令和4(2022)年度から「飯南町教育環境基本方針検討委員会」を開催しました。小中高校の関係者、保護者代表、地域住民等による検討を重ね、令和6(2024)年2月には検討委員会から教育長に対して教育環境基本方針を策定した答申書が提出されました。

本計画はその答申書を尊重しながら、次世代を担う子どもたちにとって、より良い教育環境や学校の配置・規模について方向性を定めることを目的とします。

## 2 教育環境基本計画の位置づけ

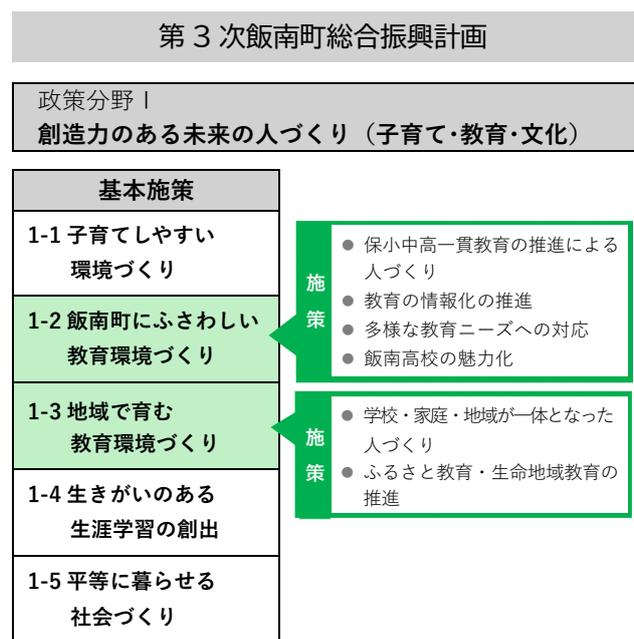
本計画は第3次飯南町総合振興計画を上位計画とし、第3次飯南町総合振興計画で示される5つの施策分野のうちの一つである「施策分野Ⅰ 創造力のある未来の人づくり」における施策と整合性を図ります。

また、総合振興計画の理念を基に策定された飯南町教育大綱や飯南町教育環境基本方針(答申)と整合性を取りながら、本計画における教育環境づくりに取り組んでいきます。

【図表 1 計画の位置づけ】



【図表 2 第3次飯南町総合振興計画との関連】



【図表 3 策定の経緯及びスケジュール】

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度～
教育環境基本方針 検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討委員会(10回)</li> <li>・学校視察</li> <li>・住民説明会</li> </ul>	答申 (2月)		
教育環境基本計画 (案) 【本計画】			<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本方針周知</li> <li>・生徒・町民意見聴取</li> <li>・各種調査実施</li> <li>・スクールバス運行調査</li> <li>・志々小学校耐震調査</li> </ul>	R6年度完成
教育環境基本計画 策定				計画策定
実施計画				実施計画

## II 飯南町の教育

### 1 飯南町の教育方針

#### 1.1 これからの時代に求められる教育環境

令和3(2021)年1月の中央教育審議会答申において、「令和の日本型学校教育」の目指すべき姿は「全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現」であると示されました。

今、学校現場では、学習指導要領の改訂、教育の多様化、教員の働き方改革などへの対応が求められています。

一方、地域では、歯止めのかからない人口減少と少子高齢化が重点課題となり、そして家庭では核家族化や共働きによる子育てへの不安など、子どもたちをとりまく学習環境に大きな変化が生じています。

#### 1.2 第3次飯南町総合振興計画における教育政策（飯南町がめざす教育環境）

こうした中で、第3次飯南町総合振興計画では、定住対策、学校教育、社会教育、地域づくりなど広い視点に立って以下の「飯南町にふさわしい教育環境づくり」「地域で育む人づくり」の取り組みを進め、これからの時代にふさわしい教育環境を構築していきます。

#### 飯南町にふさわしい教育環境づくり

##### 保小中高一貫教育の推進による人づくり

- 学習環境の充実により、確かな学力を育成し、幅広い知識を身につけます。
- ふるさと飯南町を誇りに思い、社会で役立つ学力を身につけ、前に一步踏み出す力、協働する力を育成します。
- これからの社会を生き抜く創造力ある人材を育成するため、みらい人材育成事業などを推進します。
- キャリア・パスポートにより、飯南町で育てたい子どもの資質・能力を示し、連続的・系統的な指導を行うことで、めまぐるしく変化する社会で活躍できる力を育みます。
- 学習支援館できめ細かな学習支援を行い、中高生が確かな学力を身につけ個々の進路実現につながるようサポートします。

##### 教育の情報化の推進

- ICT活用授業をはじめとする教育の情報化を推進し、主体性、探究力、思考力を高め、これからの地域社会に貢献できる人材を育成します。
- 国の掲げる教育 DX を推進し、自らの課題解決や価値創造など未来を切り拓ける人材を育成します。
- 教育データを蓄積し可視化することで、教育効果を最大限に発揮します。

### 多様な教育ニーズへの対応

- 飯南町特別支援相談ネットワーク<sup>1</sup>など関係機関と連携して、特別な支援を要する児童生徒のきめ細かな相談支援体制をつくりまします。
- 増加傾向にある不登校・不登校傾向の児童生徒に適した居場所の確保と個々の実態に応じた学習支援体制をつくりまします。
- 特別な支援が必要な児童の放課後や長期休業中の受け入れ体制を検討しまします。

### 飯南高校の魅力化

- 教育活動の支援や通学助成など、魅力ある教育環境の支援に取り組みまします。
- 飯南町をフィールドとしたキャリア教育「生命地域学」の充実や、探究過程の評価指標を構築するなど、他校との差別化を図るため、専門職員を配置しまします。
- ホストファミリー制度<sup>2</sup>や生命地域ラボ<sup>3</sup>を充実させ、生徒が地域に飛び出す機会を創出し交流を図ることで、卒業後の関係人口の拡大に取り組みまします。
- 生徒と地域住民が交流を図ることで、生徒の学びを深めるとともに、地域の活力を生み出す場を提供しまします。
- 県内外の大学や企業、卒業生などとの交流や協働を推進するための組織や仕組みづくりに取り組みまします。

### 充実した教育環境の整備

- 老朽化が進む学校施設の整備については、令和3(2021)年3月に策定した「飯南町学校施設長寿命化計画」にもとづき進め、保育施設についても財政状況を勘案しながら必要な整備を実施しまします。
- 教育環境基本方針の答申を踏まえ、施設の劣化の状況や改修コストなどを適切に把握しつつ、児童・生徒の安全・安心で快適な教育環境を整備していきまします。

## 地域で育む人づくり

### 学校・家庭・地域が一体となった教育環境づくり

- 学校運営協議会(コミュニティ・スクール)と地域学校協働活動の一体的な推進により、地域と学校の連携・協働を進め、地域資源を生かした多様な学びを支援しまします。
- 保小中高を通して勤労の意義や地域の魅力発見のため、職場体験やインターンシップの充実、地元企業との交流を推進しまします。
- 「ふるさとシンポジウム」など、地域と保護者、教育関係者、子どもたちが一緒になり、地域の活動などに参画し貢献しようとする意欲を育みまします。
- 地域での子どもの育成活動や非行防止活動に努め、登下校の安全確保やスクールバス運行などの充実、地域における見守り活動を推進しまします。

### ふるさと教育・生命地域教育の推進

- 「ふるさと教育」や「生命地域教育」で、地域課題を洗い出し、その課題解決策を考え、地域で貢献できる人材の育成につなげまします。
- 郷土の文化伝統を伝承する団体・組織を支援し、次の世代となる保小中高生など、ふるさとの産業・文化や暮らし、気質を伝え、心豊かで創造性にあふれ、ふるさと飯南町に誇りを持てる人材の育成を推進しまします。
- 今後、人口減少等により地域コミュニティが再編された場合でも、ふるさとの人づくりや地域のつながりづくりが進められるよう、公民館機能を活かした活動を行います。

<sup>1</sup> 飯南町特別支援相談ネットワーク:特別な支援を要する子どもとその家庭に対し、教育・福祉・医療関係者などが連携して相談支援を行うための組織。

<sup>2</sup> ホストファミリー制度:親元を離れて飯南町で高校生活を送る県外生が、安心して高校生活を送り、飯南町の良さを感じることができるよう、高校生をサポートしながら交流を図る制度。

<sup>3</sup> 生命地域ラボ:地域活動への参加や、生徒が自主的に企画した活動の実践など、生徒のやりたいことを形にする有志によるクラブ活動。

### 1.3 飯南町教育大綱

飯南町教育大綱は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の3の規定に基づき、飯南町の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものです。

第3次飯南町総合振興計画の基本理念である「小さな田舎<sup>まち</sup>からの生命地域宣言」をキーワードとし、以下を基本理念として掲げています。

#### ① 基本理念

以下の基本理念のもと、町長部局と教育委員会が、教育の振興や人材の育成に関して意思の疎通を図り、それぞれの役割と責任に応じ施策に取り組んでいきます。

ふるさと飯南の学びを原点に 一人一人が輝く人づくり

自分たちが生まれ育った地域について子どもの頃から学び、飯南や島根などの未来を考え、将来の自分の役割や地域の人の上に思いを馳せることは、社会人として自立していく上でも極めて重要です。ふるさと飯南で育ち学んだ自信と志を原点に、夢や希望を実現できる人づくりが大切です。

次世代を担う人を育むうえで、教育の果たす役割は重要です。豊かな自然、文化・歴史、温かい地域社会などの優れた教育環境を活かして、学校・家庭・地域・企業等が連携・協働し、地域ぐるみで教育に取り組む必要があります。さらに、保小中高一貫した生命地域教育や小さな田舎まちだからこそできる飯南町らしい魅力ある教育を推進する必要があります。

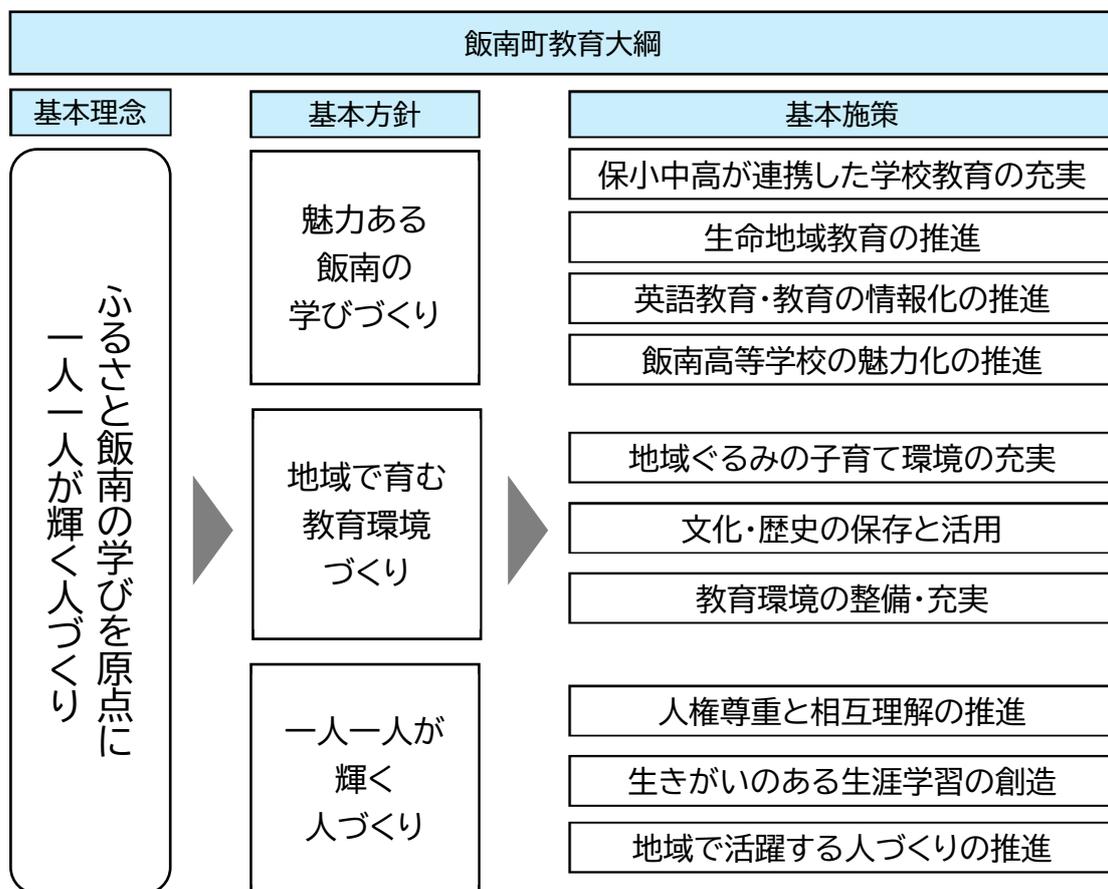
日本や世界を見渡す広い視野と飯南町や島根への愛着と誇りを持ち、世界や日本と自分との関係や生まれ育った地域と自分との関係を意識しながら、自分の夢や希望の実現に向かっていく人づくりは重要です。

飯南町にいながら世界を舞台に活躍できる人づくりなど、志を高くもち、自分の夢や希望の実現に向かって意欲的に進むとともに、社会に能動的に関わる態度や地域に貢献する心を育み、一人一人が輝く人づくりに取り組んでいきます。

出典：飯南町教育大綱

② 体系図

【図表 4 飯南町教育大綱 体系図】



## 1.4 飯南高校の教育方針

島根県立飯南高等学校は、緑豊かな「生命地域 飯南町」にあり、温かい地域の方々を支えられた学校です。昭和23(1948)年、島根県立川本農林高等学校の分校として開校し、昭和38(1963)年に島根県立飯南高等学校として独立して以来、今日まで飯南町唯一の後期中等教育機関として、様々な分野で活躍する人材を数多く輩出してきました。

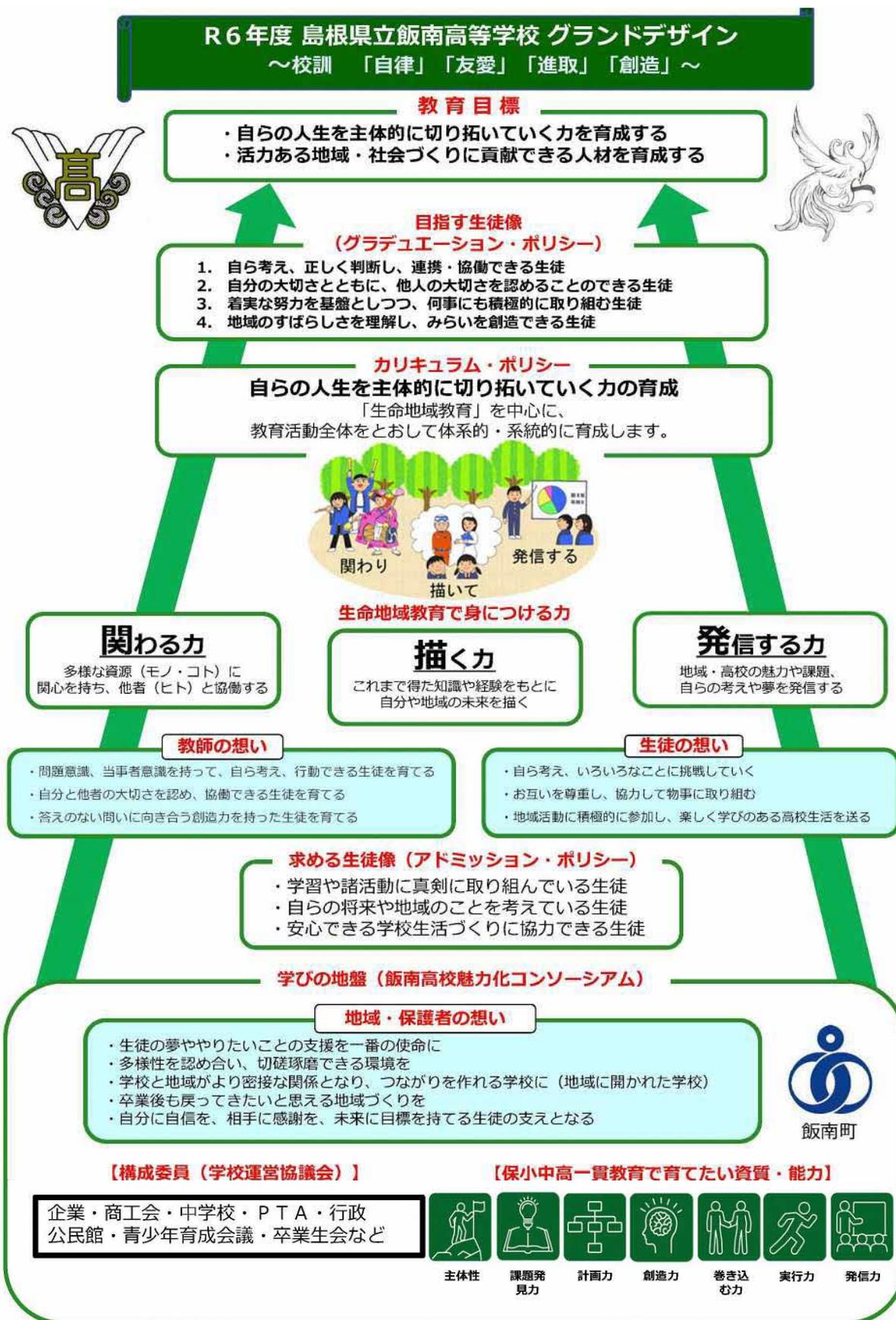
飯南高校ではグランドデザインに掲げる「自らの人生を主体的に切り拓いていく力を育成する」「活力ある地域・社会づくりに貢献できる人材を育成する」の教育目標の実現に向け、様々な教育活動に取り組んでいます。就職から大学進学までの広範な進路に対応した科目選択も可能で、1学年2クラスの小規模校のメリットを最大限に活かした個別指導や少人数別習熟度授業などの手厚い指導が行われています。

また、町内の中学校との中高一貫教育(連携型)を実施し、中学での学びから高校への学びへの円滑な接続をはかりながら6年間をかけて生徒を育てています。平成26(2014)年度からは独自の設定科目であるキャリア教育「生命地域学」がスタートし、「関わる力」「描く力」「発信する力」をはじめとした社会で役立つ力を身につけることを目指した教育が行われています。

近年は、全国の中学校約40校から生徒が入学し、多様性にあふれた環境の中で生徒は学校生活を送っています。また寮生活を通して自立・協働・貢献の精神が培われています。県外からの入学生は、ホストファミリーのもとで、地域イベントへの参加や都市部では経験できない田舎ならではの体験を通して地域の皆さんとの交流を行っています。



【図表 5 飯南高校グランドデザイン】



出典：島根県立飯南高等学校 HP

## 2 飯南町ならではの魅力ある教育（飯南町教育環境基本方針(答申)より）

飯南町教育環境基本方針(答申)で示された、飯南町で実施されている教育の取り組みについては次のとおりです。

### 2.1 保小中高一貫教育を柱とした教育

#### ① 保小中高が連携した学校教育の充実

子どもたちが「ふるさと飯南町を誇りに思い、社会で役立つ学力を身につけ、前に一步踏み出す力、協働する力を育成する」ことを目標に、保小中高一貫教育が推進されています。

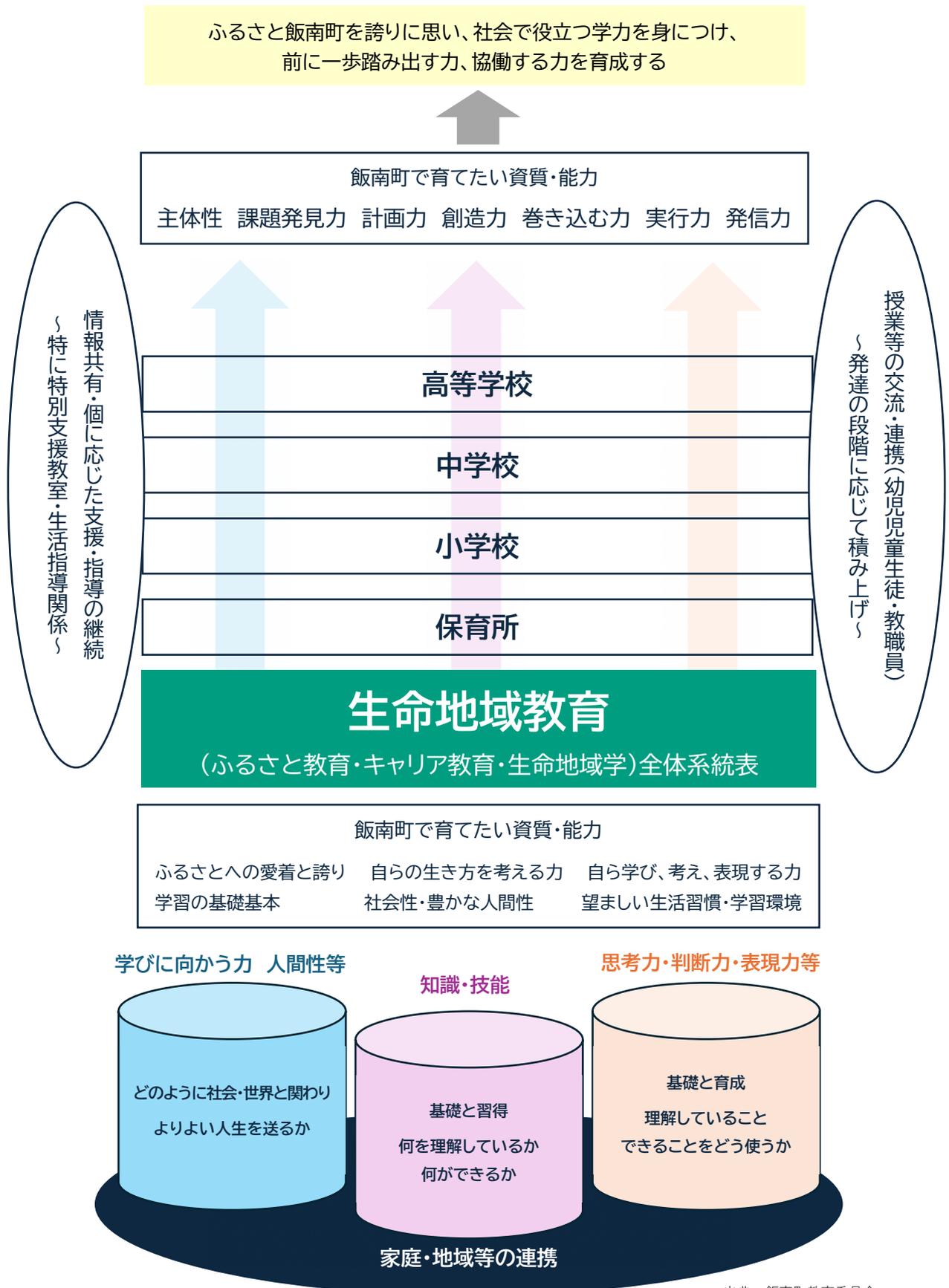
この目標を具現化するために、飯南町で育てたい資質・能力として「主体性」「課題発見力」「計画力」「創造力」「巻き込む力」「実行力」「発信力」の7つをキャリア・パスポートによって示し、連続的・系統的な指導を行うことで、まちぐるみで子どもたちの学びを応援しています。

<b>飯南町保小中高一貫教育の目標</b>  ふるさと飯南町を誇りに思い、社会で役立つ学力を身につけ、 前に一步踏み出す力、協働する力を育成する	
---	--

【図表 6 飯南町で育てたい7つの資質・能力】

	主体性	課題発見力	計画力	創造力	巻き込む力	実行力	発信力
飯南高校	達成すべきねらいを自ら考え判断し、積極的に取り組む	多様な資源(モノ・コト)に関心をもち、さまざまな課題を発見する	目標を見通して、今何をすればよいか考える	これまで得た知識や経験をもとに、自分や地域の未来を描く	地域等の多様な資源(ヒト)に働きかけ協働する	自らの考えや夢の実現に向けて、挑戦し未来を切り拓く	地域・学校の魅力や課題、自らの考えや夢を発信する
中学校	達成すべきねらいや目標、活動における自分の役割を認識し、積極的に諸活動に取り組む	積極的に実社会や実生活に関心をもち、獲得した知識・技能を適用する	自分の夢や目標を見据えて、自分の意思をもち、計画を設計する	課題解決に向けて、自分なりに仮説をたてて新たな方法を生み出す	他者をサポートしながら、目標の達成に向け協力して活動する	目標の実現に向けて、計画を立て確実にやりきる	他の人の考えや立場を理解して、自分の考えに取り入れながら伝える
小学校	より高い目標を立て、課題に根気強く取り組む	地域を見つめなおすことで、目的や課題を見つける	目標の実現のための方法や手順を工夫する	進んで新しい考えや方法を求め、工夫して取り組む	進んで周囲とかわり、協力して活動する	目標の実現に向け、粘り強く行動する	自分の考えや思いを相手を意識してはっきりと伝える
保育所	自分のやりたいことを見つける	いろいろなことに興味をもつ	やりたいことに向かって挑戦する	どうしたらできるのか考えたり、工夫したりする	友だちや保育者と楽しく遊ぶ	最後まであきらめずにやってみる	友だちや保育者と楽しく話す

【図表 7 飯南町保小中高一貫教育 体系図】



出典：飯南町教育委員会

## ② ふるさと教育・生命地域教育の推進

学校・家庭・地域が相互に連携・協働し、豊かな人間性を育むために生命地域教育が推進されています。小中学校での「ふるさと教育」、高校での「生命地域学」で地域のひと・もの・ことを活用した学習を通して、飯南町の子どもたちの郷土愛が育まれています。

その発表の場となる「ふるさとシンポジウム」においては、小学生、中学生、高校生により、実体験に基づいた素晴らしい発表がされています。

## ③ 教育の情報化の推進

ICT 活用授業をはじめとする「教育の情報化」を推進し、主体的で個別最適化そして探究的な学びができる環境が整えられています。

また、小さな町のメリットを活かし、いち早くタブレット端末を配布しました。そして、ICT 授業により「主体性」「探究力」「思考力」を高め、「これからの社会に必要な学力を身につけ、地域社会に貢献できる人材を育成する」という目標を設定し、町内小中学校にその理念を普及することができています。

これによって、クラウド<sup>4</sup>をベースとした教育環境が構築され、子どもたちの個々の学習情報が可視化、共有化、蓄積化され、個別最適な学びにつながっています。

## ④ 飯南高校の魅力化

町内をフィールドとした独自の設定科目「生命地域学」や「総合的な探究の時間」では、地域住民や公民館、中山間地域研究センターなど様々な立場の方々と協働し、主体性を育てています。

学校経営補佐官や高校魅力化コーディネーターの配置により、上記生命地域学等のサポートや戦略的な生徒募集を推進しています。

## ⑤ 飯南町学習支援館

飯南町では町営の「学習支援館」を設置し、飯南高校の生徒や町内の中学生を対象として、一人ひとりの生徒の進路に合わせたきめ細やかな指導を行い、生徒たちの「学ぶ力」と「視野」を広げています。

## 2.2 地域ぐるみの子育て環境の充実

### ① 定住対策と子育て環境

飯南町は宝島社が発刊する『住みたい田舎ベストランキング』の「子育て世代が住みたい田舎ベストランキング」で、ここ数年、上位に選ばれており、その評価は、住宅や仕事の確保などの定住対策、医療福祉の充実、そして子育てや教育環境への手厚い支援対策が総合的に評価されたものです。

また、各地区での「こども広場」の整備など、子育て世代が、身近なところで安心して、子どもたちと楽しめる空間を作っています。

このように、町全体で安心して子育てできる環境づくりが進められています。

---

<sup>4</sup> クラウド:「クラウドコンピューティング(Cloud Computing)」を略した呼び方で、データやアプリケーション等のコンピューター資源をネットワーク経由で利用する仕組みのこと。

## ② 個々に応じた切れ目ない支援

特別支援教育サポーターの配置、通級指導教室の充実、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる支援体制が確保されています。

また、保健福祉部局など関係機関と連携した特別支援相談ネットワークにより、個々に応じた切れ目ない支援を行っています。

これらの施策により、増加傾向にある不登校や不登校傾向の児童・生徒や特別な支援を要する児童・生徒の相談指導体制が整えられています。

## ③ 学校運営協議会（コミュニティ・スクール<sup>5</sup>）の推進

地域ぐるみで子育てできる環境を充実させるため、令和5(2024)年度から、学校・家庭・地域が一体となった学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の導入に着手しました。

令和5(2024)年度は、赤来中学校と志々小学校をモデル校として先行的に導入を進め、令和6(2025)年度には全ての小中学校に導入され、関係者への研修会なども行いながら、実効性のある組織が作られています。

## 2.3 一人ひとりが輝く人づくり

### ① 生きがいのある生涯学習の創出

飯南町社会教育推進計画に基づき、「学びづくり」「つながりづくり」「環境づくり」をキーワードとして、社会教育の各種事業を推進し、生涯を通じた学習機会を創出しています。

また、地区の公民館と連携し、公民館事業によって住民や子どもたちが地域と一体となって活動できる機会を作っています。

このように、社会教育を推進することにより、飯南町で生きがいを持って生活し、生涯を通じて学習できる機会を充実させ、地域社会に貢献できる人材の育成が進められています。

### ② 町立図書館の充実

「人と人、人と本の出会いを広げ、町民が豊かに暮らせるまちづくり」を基本理念として町立図書館を運営し、誰もが親しみやすい生涯学習の場が提供されています。

---

<sup>5</sup> コミュニティ・スクール:学校運営協議会を設置した学校のことであり、学校の運営を学校と地域が一体となって取り組むための仕組みのこと。

### 3 飯南町の学校と地域における課題

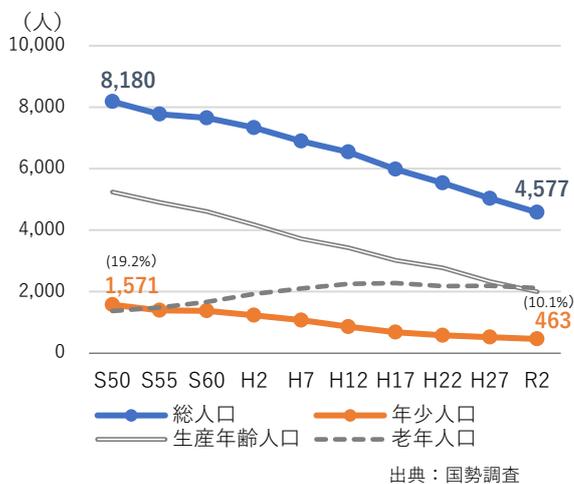
#### 3.1 人口の維持

飯南町の人口は減少傾向にあります。特に年少人口の減少幅は大きく、昭和50(1975)年の1,571人から45年間で約7割減少し、令和2(2020)年には463人となっています。総人口に占める年少人口の割合も同期間で半分に縮小しています。

人口移動では中学、高校卒業時に町外へ転出した人口が戻ってこない傾向がみられ、定住者に占めるUターン者の割合も少ない状況です。

答申に掲げたように、小学校を存続するためにも各地区における人口の確保が喫緊の課題となっており、今後は人口を維持させるための定住施策に合わせて、町外への転出を減らす取り組みやUIターンを促進する取り組みが必要です。

【図表 8 総年齢人口と年齢3区分人口の推移】



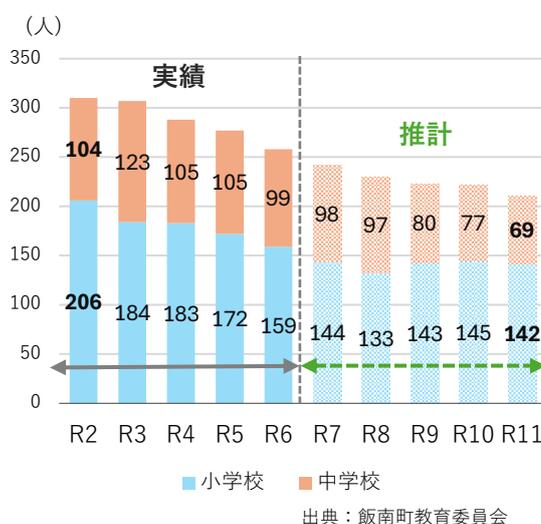
#### 3.2 児童・生徒の確保

児童・生徒数は減少傾向にあり、今後も更なる減少が想定されます。

小学校が、児童数や学級数の減少により、「極小規模校<sup>6</sup>」となった場合は、教頭が学級担任をするか教頭無配置校となり学校の運営に支障をきたすことが考えられます。志々小学校が令和8(2026)年度から、特別支援学級の状況によっては極小規模校となる可能性があります。

今後も小中学生の人口減少が見込まれる中、児童・生徒の確保が課題となるとともに、場合によっては、学校の再編も含め、あり方を検討することが必要です。

【図表 9 生徒数・児童数の推移と今後の見込み】



#### 3.3 教育環境の変化への対応

今後、学校が再編された場合は、教育環境の大きな変化が想定されます。中学生や高校生への意見集約においても、環境の変化や慣れない環境、人間関係への不安に関する意見が多く挙げられました。新しい環境に対しての精神的不安や通学時間の増加による身体的疲労に加え、家庭学習時間の確保が難しくなることも考えられます。

環境の変化による生徒への負担の軽減のため、生徒一人ひとりに合わせたきめ細やかな対応や学習環境の確保が必要となります。

<sup>6</sup> 極小規模校…全校児童15人未満かつ3学級以下となる場合、教職員定数配置基準により教職員定数が1人減となる。このような規模の学校を本計画では「極小規模校」と位置づける。

### 3.4 学校施設の維持管理

町内の小中学校の施設は、総じて老朽化が進んでおり、施設劣化への対応が今後さらに増加することが想定されます。校舎や屋内運動場については、これまでも計画的に大規模改修や耐震補強工事を実施してきたものの、それ以降も毎年小規模な改修が必要となっています。

校舎、屋内運動場については、併設や統合により適正化を図ったうえで、耐震化の完了を目指します。また、継続して施設の劣化状況や改修にかかる費用を把握し、適切な維持管理に努めます。

学校を再編する場合は、再編後、使われなくなった校舎の利活用方法についても今後検討が必要です。

【図表 10 工事費シミュレーション(2020~2070)】



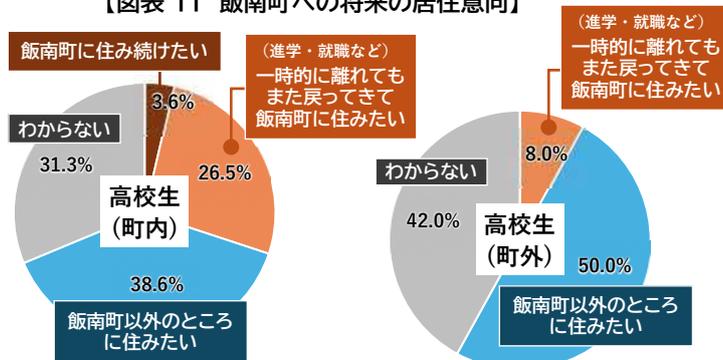
### 3.5 飯南高校の生徒の確保

小中学校児童・生徒数に基づく飯南高校入学生の予測では、令和9(2027)年以降には50人を下回るとされています。町内中学校から飯南高校への進学率は約7割となっており、町内の小中学校の児童・生徒が減少する中、生徒の確保が課題となります。

### 3.6 飯南町への定住意向の醸成

進学・就職など一時的に飯南町を離れる場合も含め、将来飯南町への居住意向がある生徒の割合は、町内出身者は約3割、町外出身者は約1割にとどまっており、生徒の飯南町への定住意向の醸成が課題となります。

【図表 11 飯南町への将来の居住意向】



### 3.7 地域とのつながり

「ふるさと教育」を通じて、地域のひと・もの・ことと関わることは、子どもたちの地域への愛着の形成や郷土愛の育みのために重要となります。

飯南町では学校と地域が一体となって子どもたちの成長を支えていくため、学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の取り組みが令和6(2024)年度から全ての小中学校に導入されました。今後は各地域や学校での取り組みの浸透・定着が課題となります。

部活動では、文部科学省から示されたガイドラインにより、「地域の実情に応じて可能な限り早期に学校部活動の地域移行を進める」よう方針が示されており、地域での指導者確保が必要です。

今後は学校運営協議会(コミュニティ・スクール)や部活動の指導者確保を含め、より幅広い地域住民の参画が課題となります。

### III 小中学校の適正規模・適正配置計画

#### 1 飯南町における小中学校の適正規模・適正配置計画

##### 1.1 小・中学校の適正規模と配置の理念（飯南町教育環境基本方針(答申)より）

飯南町教育環境基本方針(答申)で示された、小・中学校の適正規模と配置の理念は次のとおりです。

###### ① 小学校の適正規模

「地域ぐるみで育てる教育環境」を本町の小学校の適正規模の理念とし、可能なかぎり小学校を存続する。

- ただし、全校児童数15人未満かつ3学級以下となる場合が一定期間続く小学校は、再編も含め、在り方を検討する。
- なお、再編を検討する場合は、地域の実情や施設の状況を十分配慮して検討する。

###### ② 中学校の適正規模

「学校集団で育てる教育環境」を本町の中学校の適正規模の理念とし、学校集団による人格形成と、中高の連携を考慮しつつ再編を検討する。

- なお、再編を検討する場合は、地域の実情や施設の状況を十分配慮して検討する。
- 再編する場合は、保小中高一貫教育など飯南町ならではの魅力ある教育をより一層強化できるような場所を検討する。

###### ③ 小中学校の適正配置

- 通学時間は、小中学校ともに、片道概ね1時間以内を基本とする。
- 特に遠距離通学の場合、交通手段の確保と支援策を検討する。

##### 1.2 再編に向けた考え方

本計画の策定にあたっては、次の事項について留意しながら計画策定を進めました。

- 令和6(2024)年2月に飯南町教育環境基本方針検討委員会から提出された答申書の内容を尊重すること。
- 第3次飯南町総合振興計画や飯南町教育大綱など飯南町のまちづくりの上位計画との整合性を図ること。
- 学校施設長寿命化計画や志々小学校耐震診断調査などにより、学校施設の状況を分析すること。
- スクールバス運行の検討により、児童生徒の交通手段の確保と支援策を検討すること。
- 住民、保護者や子どもたちが参画した多くの議論を重ねながら計画を策定すること。

### 1.3 小学校の再編計画

これまで述べてきたように、本計画では基本方針(答申)を尊重しつつ、地域の実情や学校施設の状況、児童数の推移、通学時間など必要な調査研究を行い、小学校の配置計画を定めました。

#### ① 赤名小学校

赤名小学校については、資料編11ページ【資-図表21】に示される児童数の将来予測でも令和12(2030)年で48人、令和22(2040)年で41人の児童数が維持される見込みであり、資料編17ページ【資-図表28】に示される学校施設の状況も比較的健全であることから、可能な限り存続することとします。

#### ② 来島小学校

来島小学校については、同様に令和12(2030)年で54人、令和22(2040)年で47人の児童数が維持される見込みであり、学校施設の状況も比較的健全であることから、可能な限り存続することとします。

#### ③ 頓原小学校

頓原小学校については、同様に令和12(2030)年で46人、令和22(2040)年で36人の児童数が維持される見込みであり、学校施設の状況も比較的健全であることから、可能な限り存続することとします。

#### ④ 志々小学校

志々小学校については、資料編11ページ【資-図表21】に示される児童数の将来予測において、令和12(2030)年で12人、令和22(2040)年で11人と徐々に減少する見込みとなっており、基本方針の答申に示される「全校生徒15人未満かつ3学級以下」となる期間が長期に及ぶ可能性が高くなっています。

また、令和6(2024)年度に実施した志々小学校耐震診断調査において、「耐震基準を満たしておらず、補強を要する建物である」と判定されました。この判定を受けて、建物補強や新築に要する経費を検討しましたが、資料編21ページ【資-図表32】に示した通り、いずれも莫大な事業費となります。

上記から判断して、志々小学校については、保護者や地域と十分協議を行い、頓原小学校への統合を検討します。

## 1.4 中学校の再編計画

中学校については、学校集団で育てる教育環境を理念とする基本方針を尊重し、赤来中学校と頓原中学校の2つの中学校を再編します。

中学校を再編した際の校舎の位置を検討するため、以下の3パターンについて、「施設」「生徒数」「通学」「コスト」の観点から、各案を比較評価しました。

案①	頓原中学校校舎を使用
案②	赤来中学校校舎を使用
案③	来島地区に校舎を新設

【図表 12 中学校位置図】



### 【比較1 施設】

校舎は頓原中学校が赤来中学校に比べて8年程新しいものの、敷地面積や教室面積は赤来中学校が広がっています。

グラウンド等の屋外施設をみると、頓原中学校は頓原球場、町民グラウンドなどの屋外施設が隣接するなど周辺施設が充実しています。

案③(来島地区に校舎を新設)の場合は、建設用地確保が必要ですが、適した用地が周辺になく、確保ができない状況です。

### 【比較2 生徒数】

令和6(2024)年時点の生徒数は頓原中学校が35人、赤来中学校が64人と大きな差がありますが、赤来中学校では令和8(2026)年から令和9(2027)年にかけて生徒数が大きく減少することが予想され、令和9(2027)年以降には2つの中学校の生徒数は同程度となる見通しです。(資料編8ページ【資-図表14】)

### 【比較3 通学】

令和12(2030)年のスクールバスの利用者数は案①(頓原中学校校舎を使用)が最も多く、案②(赤来中学校校舎を使用)が最も少なくなっています。

案①の場合は、現在スクールバスの対象となっていない、上赤名、畑田を含む全ての遠距離通学生(学校から半径6kmの範囲外に居住する生徒)をスクールバスの利用対象とすることが可能となり、町内全域の長距離通学生に必要な支援ができます。最大乗車時間は案②の場合が最も長く、55分程度となっており、案①の場合は45分程度となっています。

また、案②の場合は現況より通学時間が長くなることから、志々地区からの一般混乗便をスクール専用として、運行ルートを変更する必要があると見られ、地域住民への影響が想定されます。(資料編19、20ページ【資-図表30、31】)

### 【比較4 コスト】

施設管理、更新費用(2020~2070)については、案②(赤来中学校校舎を使用)が最も高く見込まれています。(資料編18ページ【資-図表29】)

スクールバス購入費・運用費については、利用者が多い案①(頓原中学校校舎を使用)が最も多く、案②が最も少なくなっています。一人当たりの費用は、利用者が多い案①が最も安価となっています。ただし、今後、頓原中学校と赤来中学校の生徒数は同程度になることが推計される等、今後の生徒数により運用費は増減する可能性があります。

【図表 13 中学校配置 比較表】

3案を比較して◎…最も条件が良い ○…2番目に条件が良い ▲…最も条件が悪い

比較項目		案① 頓原中学校を使用	案② 赤来中学校を使用	案③ 来島地区に新設
				
施設	築年数	○ S55 (1980)	▲ S47 (1972)	◎ 新設
	敷地面積	○ 6,568 m <sup>2</sup>	◎ 41,232 m <sup>2</sup>	▲ 建設用地確保が必要
	グラウンド面積	◎ 校庭：12,000 m <sup>2</sup> 野球場：11,700 m <sup>2</sup>	○ 校庭：13,000 m <sup>2</sup> 野球場：なし	▲ 建設用地確保が必要
	教室数	○ 普通：5室 (303 m <sup>2</sup> ) 特別：9室 (940 m <sup>2</sup> )	◎ 普通：6室 (283 m <sup>2</sup> ) 特別：9室 (1,117 m <sup>2</sup> )	—
	耐震安全性	○ 旧基準 (診断済) 補強済：校舎、体育館	○ 旧基準 (診断済) 補強済：校舎、体育館	◎ 新基準
生徒数	生徒数 (推計)	○ 頓原中学校 R6：35人 R9：39人 R11：30人	◎ 赤来中学校 R6：64人 R9：41人 R11：39人	—
	生徒減少率 (R6→R11)	○ -14.3%	▲ -39.1%	—
通学	スクールバス利用者数 (R12)	▲ 60人 (現状より50人増)	◎ 34人 (現状より24人増)	○ 47人 (現状より37人増)
	通学時間平均	○ 35分 (最大通学時間45分)	▲ 38分 (最大通学時間55分)	◎ 26分 (最大通学時間45分)
	乗換が想定される生徒数	◎ 2人	▲ 5人	▲ 5人
	遠距離通学生 <sup>※</sup> のスクールバスカバー率 ※学校から半径6km範囲外	◎ 100%	▲ 73.9% (バス対象外の遠距離通学生：上赤名地区12人)	◎ 100%
	一般混乗バスへの影響	◎ 変更なし	▲ 八神-頓原地区間：中学校のスクール専用に変更 (ルート変更のため)	▲ 八神-頓原地区間：中学校のスクール専用に変更 (ルート変更のため)
コスト	施設管理・更新費用 (2020～2070) ※長寿命化では2020年に長寿命化、2040年に大規模改修、2055年に建替するものと想定して算出	◎ 施設管理・更新費：2,676百万円 ・長寿命化 825百万円 ・大規模改修 385百万円 ・建て替え 1,467百万円	▲ 施設管理・更新費：3,073百万円 ・長寿命化 978百万円 ・大規模改修 455百万円 ・建て替え 1,640百万円	○ 新設費：1,300～1,400百万円 施設管理・更新費：1,321百万円 ・大規模改修 420百万円 ・長寿命化 901百万円 ※頓原中学校と赤来中学校の施設管理・更新費用の平均を基に算出
	スクールバス購入費・運用費 (10年間)	▲ 314百万円 (1人当たり5.2百万円)	◎ 260百万円 (1人当たり7.6百万円)	○ 303百万円 (1人当たり6.4百万円)
総合評価	◎	○	▲	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>赤来中学校に比べて施設が新しい</li> <li>野球場、町営グラウンドなど、周辺施設が充実している</li> <li>赤来中学校と比べて敷地・教室面積が広いが、対応可能</li> <li>スクールバスの利用者が最も多く、購入費・運用費が最も高額となる</li> <li>最大乗車時間が案②より短い</li> <li>全ての遠距離通学生がスクールバス利用対象とすることが可能</li> <li>施設管理、更新費は案②に比べて安価となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>頓原中学校と比べて施設が古い</li> <li>校庭など屋外施設が不十分</li> <li>頓原中学校と比べて敷地・教室面積が広い</li> <li>スクールバス利用者は最も少ない</li> <li>最大乗車時間は最も長い</li> <li>志々地区の一般混乗便のスクール専用への変更により地域住民への影響が想定される</li> <li>上赤名・畑田がスクールバスの対象外となる</li> <li>施設管理、更新費が最も高額となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設用地が確保できない</li> </ul>

評価の結果、**校舎の位置は「案①頓原中学校」が最有力となる結果となりました。**

これは、以下の状況から総合的に判断したものです。

- ①来島地内に適切な用地の確保が困難である。
- ②頓原中学校は隣接する頓原球場、町民グラウンドなど周辺施設が充実しており、部活動など学校活動に効果がある。
- ③スクールバス運行調査(資料編19、20ページ【資-図表30、31】)によると、頓原中学校とした場合は、赤来中学校の場合に比べてメリットが多い結果となっている。
  - 頓原中学校とした場合には、上赤名、畑田を始めとする町内全域の遠距離通学生をスクールバスの利用対象とすることができる。(資料編19ページ【資-図表30】)
  - 頓原中学校とした場合の最大乗車時間は、赤来中学校の場合に比べて10分程度短い。
  - 赤来中学校とした場合、志々地区からの一般混乗バスをスクール専用バスに変更する必要があり、地域住民への影響が想定される。
  - 必要となる運行委託費は赤来中学校が有利(安価)となる試算であるが、頓原中学校の方が利用者が多いため、1人当たりの費用は安価となる。(資料編20ページ【資-図表31】)ただし、今後、頓原中学校と赤来中学校の生徒数は同程度になることが推計される等、今後の生徒数により運用費は増減する可能性がある。
- ④施設管理・更新費用について、長寿命化のシミュレーション(資料編18ページ【資-図表29】)で赤来中学校の長寿命化コストが最も高く見込まれている。

- 施設面、生徒数の推移、通学面、コスト面などから総合的に判断して、**令和10(2028)年度までに頓原中学校と赤来中学校を再編します。**
- なお、**再編にあたっては保護者や地域と十分協議を行い、頓原中学校校舎の使用を検討します。**

## 1.5 町の財政への影響

小・中学校の維持費を含む教育費の財源については、基本的には必要な経費が地方交付税に一般財源として算入されており、市町村の実情に応じて小・中学校の維持管理に使われています。

小学校が4校から3校になった場合は約1千8百万円の交付税の減額が、同じく中学校が2校から1校になった場合は約6百万円が減額されると試算され、今後も引き続き、財政状況を考慮しながら、小中学校の適切な運営に努めていく必要があります。

また、長期的には資料編18ページ【資-図表29】に示される、今後50年間に必要な長寿命化工事費については、再編される学校の工事費相当分が削減されることとなります。

## 2 残された課題と今後の計画

### 2.1 今後の進め方

本計画の実施にあたっては、行政・学校・地域が連携して十分な協議を行い、今後の飯南町にふさわしい教育環境を作っていくことが重要です。

再編に伴う様々な事項を検討するために再編の対象となる地域ごとに、行政、学校、保護者や地域住民、教職員で組織する「再編実施計画策定委員会(仮称)」を発足し、具体的な計画を定めていく必要があります。

この委員会では、校名や校歌、通学手段、経路、学校運営方針、PTA 活動等について検討していきます。

### 2.2 残された課題

- ① 再編するにあたっては、児童生徒の人間関係や学習環境に大きな変化が生じることから、再編後のきめ細かな指導が行えるように配慮することが必要です。
- ② 保小中高一貫教育、教育の情報化、多様な教育ニーズへの対応など飯南町ならではの魅力ある教育を、より一層強化できる「飯南町にふさわしい教育環境づくり」が必要です。
- ③ 遠距離通学となる児童生徒の負担を軽減するために、適切な通学支援策を講じる必要があります。
- ④ 今後の長期的な研究課題として、小中一貫型学校などの調査研究が必要です。
- ⑤ 再編後の対象地域の活性化や地域振興策について検討が必要です。

## 【資料編】

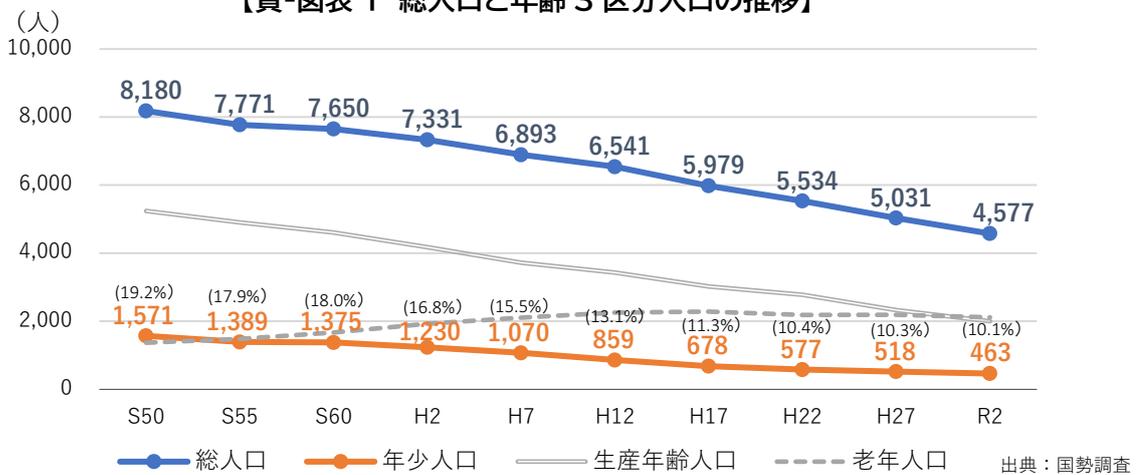
### 1 飯南町の現状と課題

#### 1.1 人口動態

##### ① 総人口と年齢3区分人口の推移

飯南町の総人口は昭和50(1975)年から令和2(2020)年にかけて、約 3,600 人減少し、8,180人から4,577人となっている。年少人口の減少幅は大きく、昭和50(1975)年の1,571人から45年間で7割減少し、令和2(2020)年には463人となっている。総人口に占める年少人口の割合は年々減少し、同期間で半分に縮小している。

【資-図表 1 総人口と年齢3区分人口の推移】

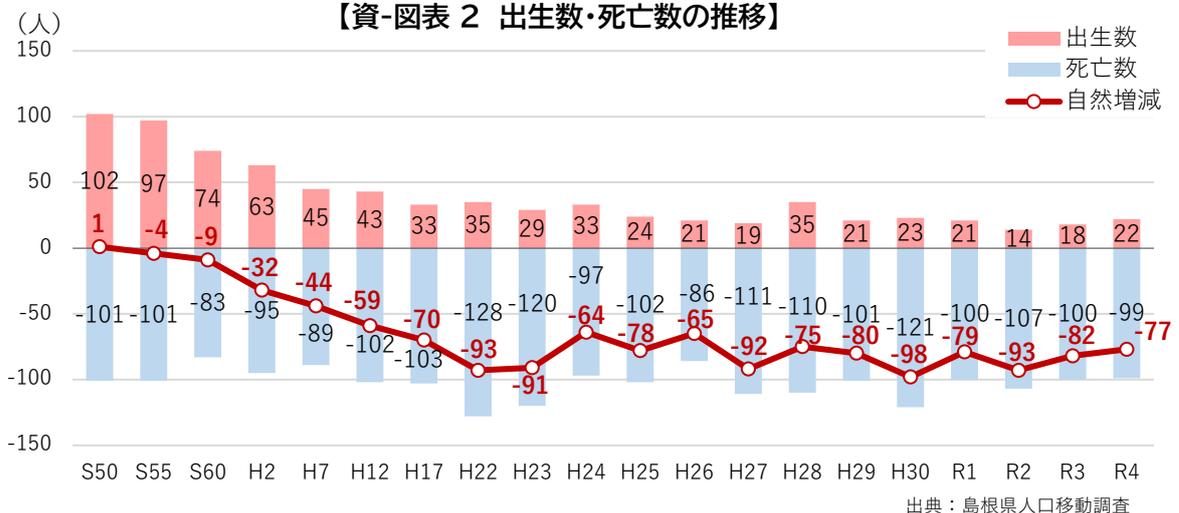


##### ② 出生数・死亡数の推移

出生数は昭和50(1975)年から平成7(1995)年にかけて半減し、以後も減少傾向が続き、平成29(2017)年以降は20人前後で推移している。死亡数は現在まで概ね100人程度で推移している。

平成27(2015)年以降、出生数も死亡数も大きな変動はなく、自然動態は-98人～-77人の間で推移している。

【資-図表 2 出生数・死亡数の推移】



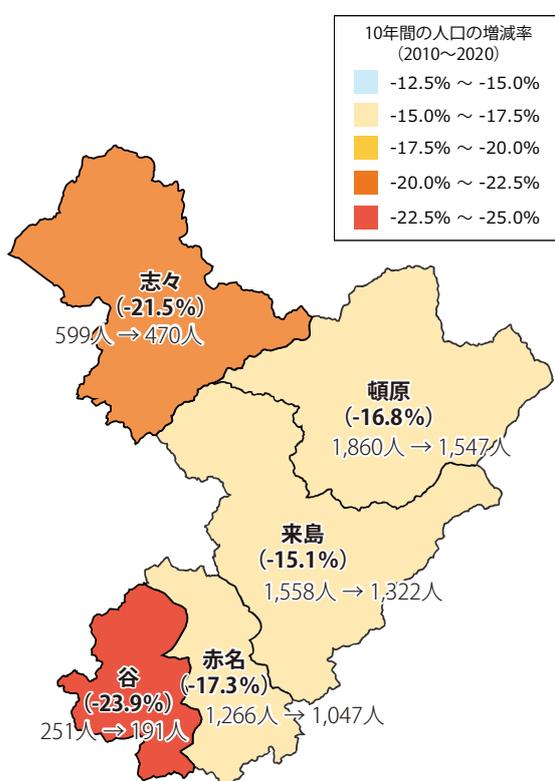
### ③ 地区別の人口減少率

飯南町で人口が集積しており、令和 2(2020)年で地区人口が 1,000 人を超える地区は、頓原(1,547 人)、来島(1,322 人)、赤名(1,047 人)の 3 地区となる。

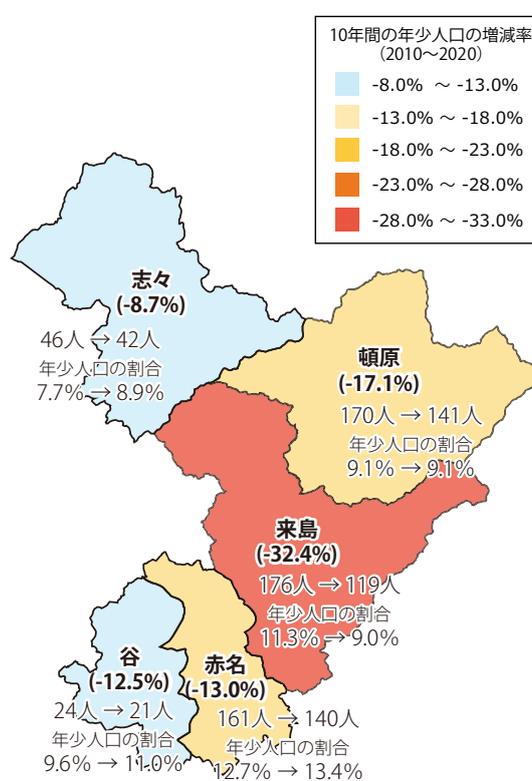
平成 22(2010)年～令和 2(2020)年の 10 年間の各地区の人口の増減率をみると、全ての地区で 15%以上減少しており、最も人口の減少幅の大きい地区は谷で、10 年間で 23.9%減少、次いで志々(21.5%)となっている。

平成 22(2010)年～令和 2(2020)年の 10 年間の各地区の年少人口の増減率をみると、全ての地区で年少人口が減少しており、特に来島では-32.4%と減少幅が大きい。

【資-図表 3 10 年間の地区別 人口減少率】



【資-図表 4 10 年間の地区別 年少人口減少率】

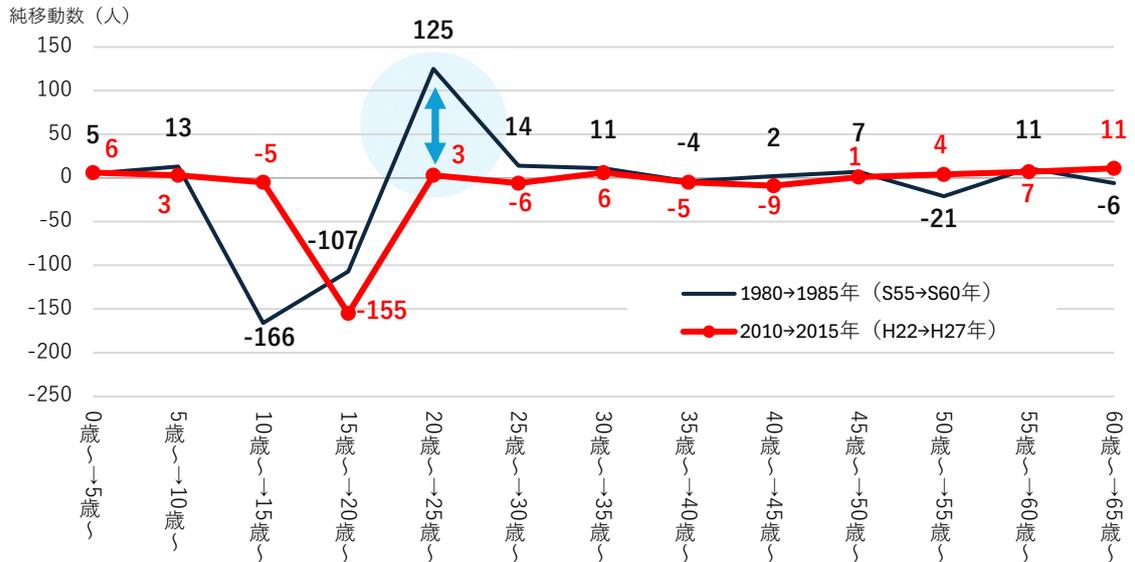


出典：国勢調査

#### ④ 年齢階級別の人口移動

人口移動をみると 1980 年代では中学校卒業時に一度町外に転出超過となった人口が、就職などにより 20 代前半に町内に再び戻り転入超過となっていたが、2000 年代になると、戻ることが少なくなり、20 代前半で転入超過となることがなくなった。

【資-図表 5 年齢階級別の人口移動】



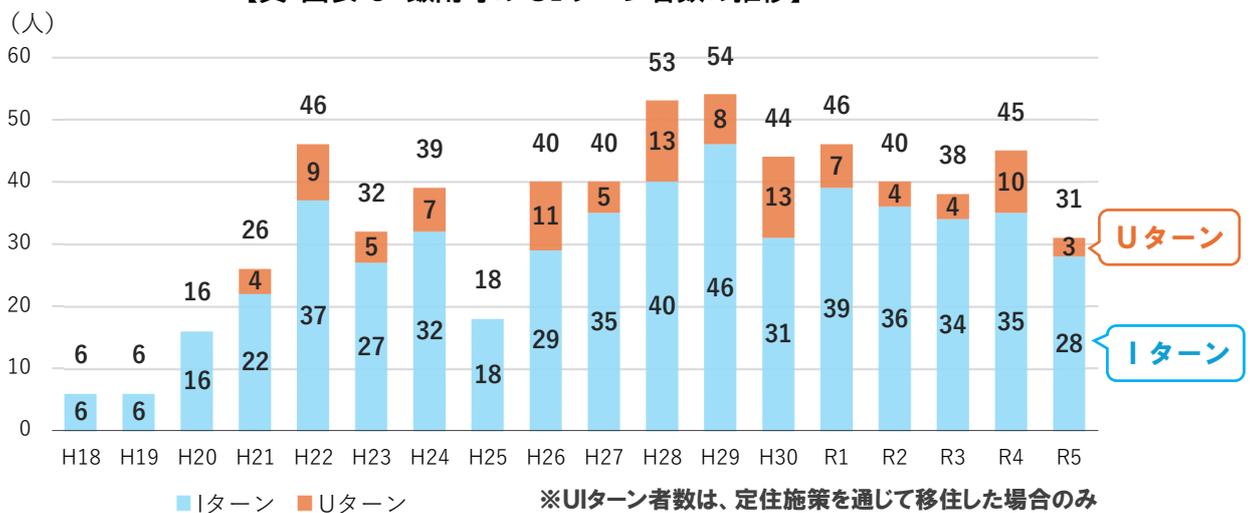
出典：国勢調査

## 1.2 移住・定住の状況

### ① UI ターン者数の推移

飯南町の UI ターン者数は、直近 10 年は 30～50 名で推移しており、I ターンが毎年全体の 7 割以上を占めている。

【資-図表 6 飯南町の UI ターン者数の推移】

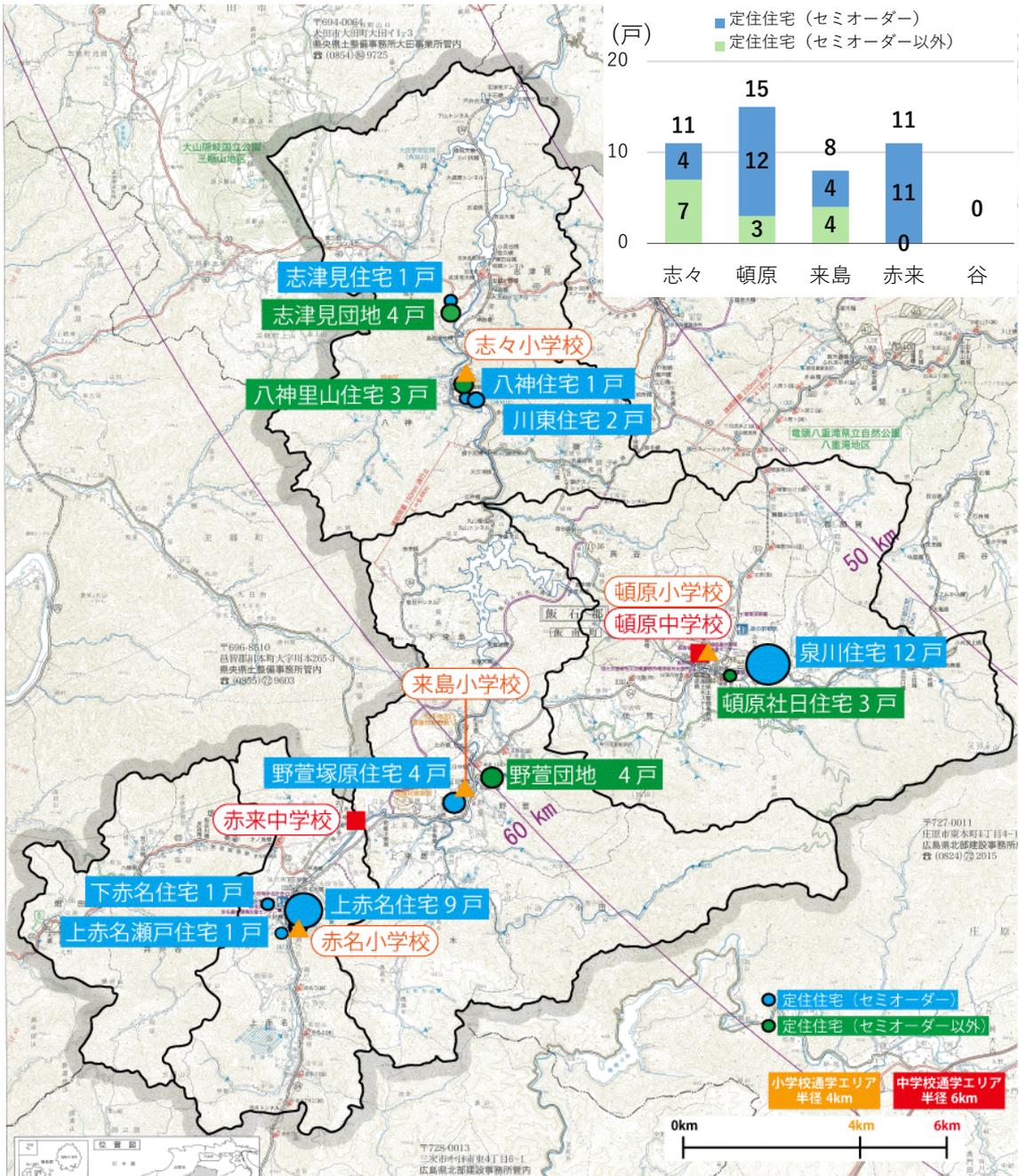


出典：飯南町教育委員会

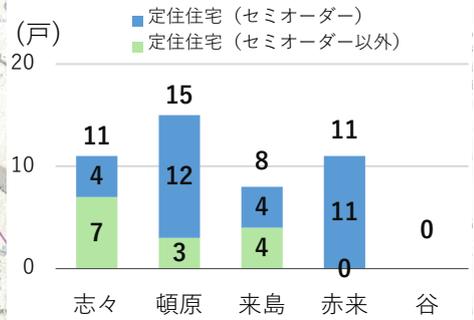
## ② 定住促進賃貸住宅数

定住促進賃貸住宅数は、頓原地区が最も多く 15 戸、赤来地区及び志々地区は 11 戸となっている。谷地区は定住住宅が無い状況である。

【資-図表 8 定住促進賃貸住宅 位置図】



【資-図表 7 地区別 定住住宅数】



出典：雲南県土整備事務所管内図を加工し、飯南町教育委員会が作成

## 課題① 飯南町全体の人口の維持

飯南町全体で人口は減少傾向にあり、特に年少人口の減少幅は大きく、昭和 50 (1975)年から 45 年間で約 7 割減少し、令和 2(2020)年には 463 人となっている。総人口に占める年少人口の割合も同期間で半分に縮小している。人口移動では中学、高校卒業時に町外へ転出した人口が戻ってこない傾向がみられ、定住者に占める U ターン者の割合も少ない。

答申で掲げた小学校の維持をするためにも各地区における人口の確保が喫緊の課題となっており、今後は人口を維持させるための定住施策に合わせて、町外への転出を減らす取り組みや UI ターンを促進する取り組みが必要である。

## 2 飯南町立小中学校の現状と教育環境の課題

### 2.1 町内の小中学校の配置状況、児童・生徒数

#### ① 小中学校の児童数の現状（令和6年）

令和6(2024)年度の児童・生徒数について、小学校では、頓原小学校と赤名小学校が50人規模、来島小学校は40人規模となっている。中学校では、赤来中学校の生徒数が64人と頓原中学校の1.8倍となっている。

【資-図表 9 飯南町内の小学校 児童数(令和6年度)】

※( )…うち特別支援学級児童数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
頓原小学校	6	12(1)	4	11	10(1)	10(1)	53(3)
志々小学校	5	0	2	3	4	2(1)	16(1)
赤名小学校	8	10(1)	8(1)	2	15(4)	7	50(6)
来島小学校	9	4	10(2)	4	5	8(1)	40(3)
小学校 合計	28	26(2)	24(3)	20	34(5)	27(3)	159(13)

【資-図表 10 飯南町内の中学校 生徒数(令和6年度)】

※( )…うち特別支援学級生徒数

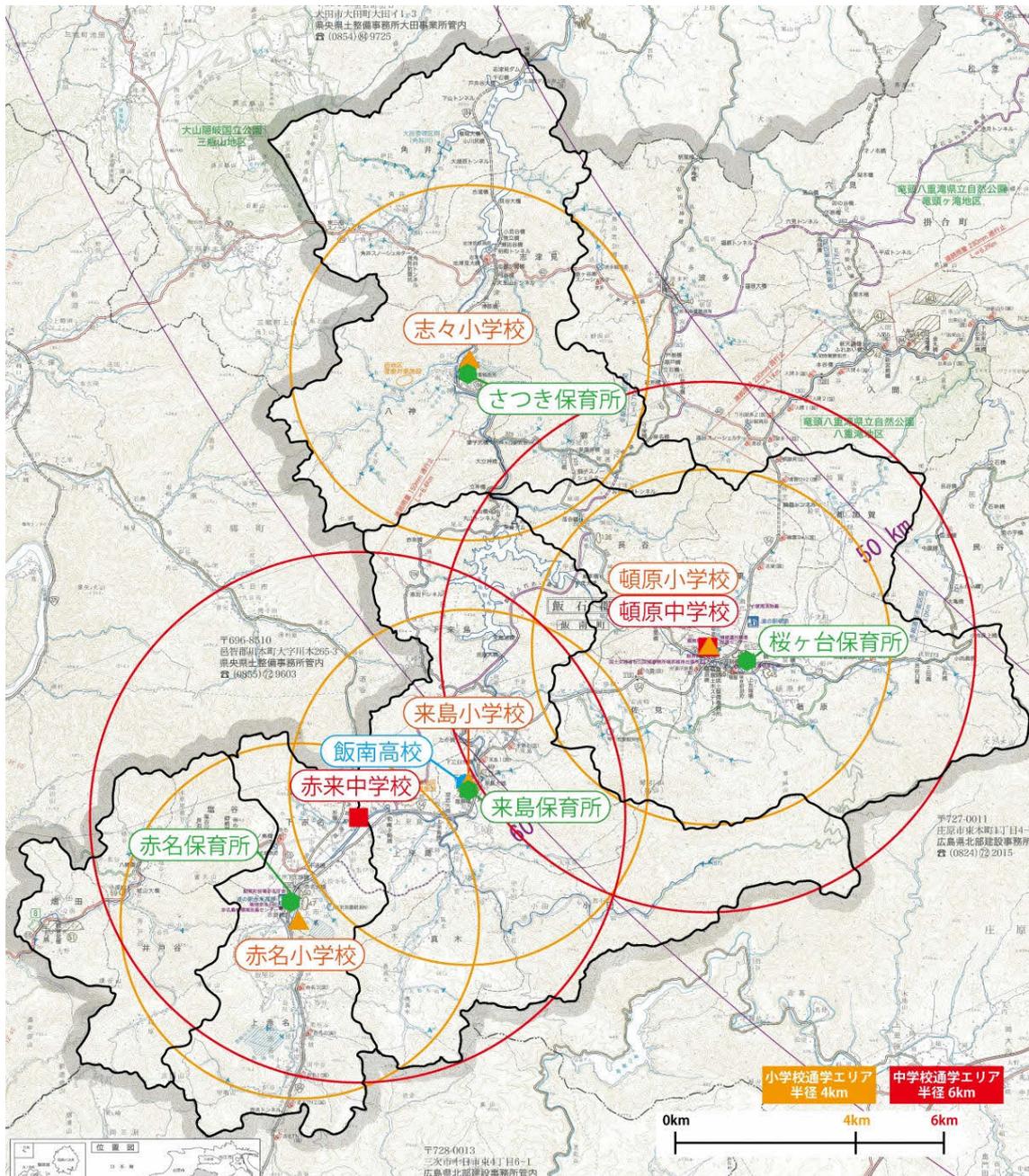
	1年	2年	3年	計
頓原中学校	14	12	9(1)	35(1)
赤来中学校	22(1)	23(5)	19(1)	64(7)
中学校 合計	36(1)	35(5)	28(2)	99(8)

出典：飯南町教育委員会

## ② 小中学校の配置状況

赤来中学校の通学エリアには、赤名小学校、来島小学校が該当し、頓原中学校の通学エリアには頓原小学校、志々小学校が該当する。

【資-図表 11 小中学校位置図】



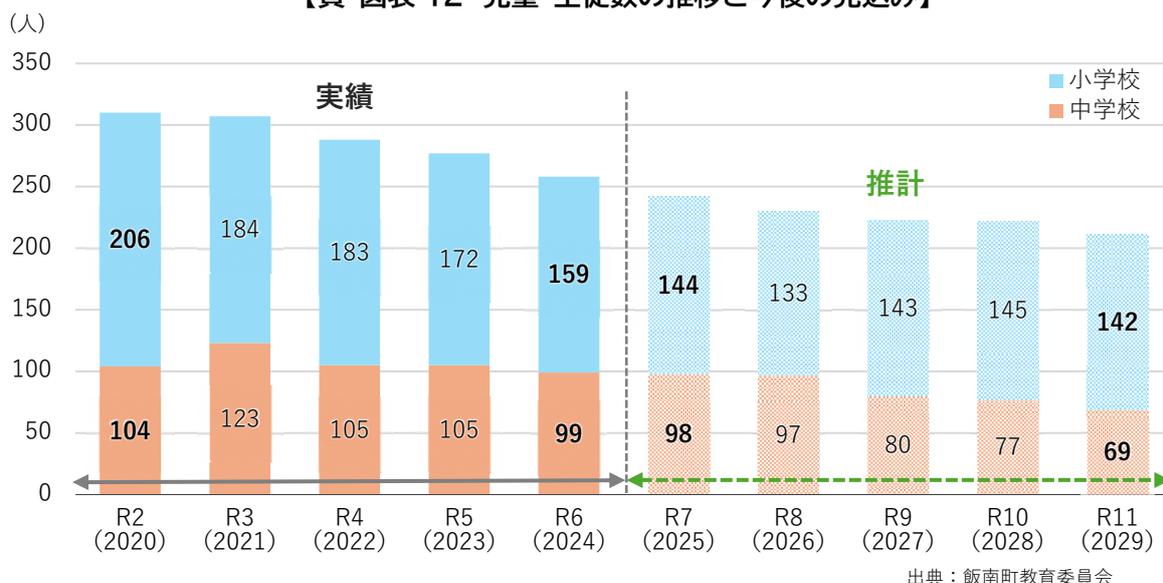
出典：雲南県土整備事務所管内図を加工し、飯南町教育委員会が作成

## 2.2 児童・生徒数の推移と今後の見込み

### ① 児童・生徒数の推移と今後の見込み

児童・生徒数の推移と今後の見込みについては、小学生の児童数は、令和 6(2024)年度の 159 人から令和 11(2029)年度には 142 人となる見込みであり、5 年間で 17 人減(△10.7%)となっている。中学生の生徒数は、令和 11(2029)年度には 69 人となり、令和 6(2024)年度と比べて 30 人減(△30.3%)となっている。

【資-図表 12 児童・生徒数の推移と今後の見込み】



【資-図表 13 児童・生徒数の推移と今後の見込み(小学校)】

学校名	実績値					推計値				
	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)
頓原小学校	62	61	57	57	53	46	45	45	50	46
志々小学校	16	13	15	14	16	16	14	13	15	16
赤名小学校	78	64	59	59	50	48	39	48	48	43
来島小学校	50	46	52	42	40	34	35	37	32	37
<b>合計</b>	<b>206</b>	<b>184</b>	<b>183</b>	<b>172</b>	<b>159</b>	<b>144</b>	<b>133</b>	<b>143</b>	<b>145</b>	<b>142</b>

※各学校の児童・生徒数の推計値は令和 6(2024)年 12 月現在作成

【資-図表 14 児童・生徒数の推移と今後の見込み(中学校)】

学校名	実績値					推計値				
	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)
頓原中学校	46	55	38	40	35	38	40	39	33	30
赤来中学校	58	68	67	65	64	60	57	41	44	39
<b>合計</b>	<b>104</b>	<b>123</b>	<b>105</b>	<b>105</b>	<b>99</b>	<b>98</b>	<b>97</b>	<b>80</b>	<b>77</b>	<b>69</b>

※各学校の児童・生徒数の推計値は令和 6(2024)年 12 月現在作成

【資-図表 15 学校別 児童数の推移と今後の見込み(小学校)】

		R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)
赤名小学校	第1学年	16	2	8	11	6	6	6	11	8	6
	第2学年	9	15	2	8	11	6	6	6	11	8
	第3学年	14	8	15	2	8	11	6	6	6	11
	第4学年	11	15	8	15	2	8	11	6	6	6
	第5学年	14	11	15	8	15	2	8	11	6	6
	第6学年	14	13	11	15	8	15	2	8	11	6
	児童数合計	<b>78</b>	<b>64</b>	<b>59</b>	<b>59</b>	<b>50</b>	<b>48</b>	<b>39</b>	<b>48</b>	<b>48</b>	<b>43</b>
来島小学校	第1学年	6	4	13	6	5	2	6	6	7	11
	第2学年	8	6	4	12	6	5	2	6	6	7
	第3学年	7	8	6	4	12	6	5	2	6	6
	第4学年	14	7	8	5	4	12	6	5	2	6
	第5学年	7	14	7	8	5	4	12	6	5	2
	第6学年	8	7	14	7	8	5	4	12	6	5
	児童数合計	<b>50</b>	<b>46</b>	<b>52</b>	<b>42</b>	<b>40</b>	<b>34</b>	<b>35</b>	<b>37</b>	<b>32</b>	<b>37</b>
頓原小学校	第1学年	10	11	4	12	6	3	9	11	9	8
	第2学年	10	10	11	4	12	6	3	9	11	9
	第3学年	10	10	10	11	4	12	6	3	9	11
	第4学年	11	10	10	10	11	4	12	6	3	9
	第5学年	9	11	10	10	10	11	4	12	6	3
	第6学年	12	9	12	10	10	10	11	4	12	6
	児童数合計	<b>62</b>	<b>61</b>	<b>57</b>	<b>57</b>	<b>53</b>	<b>46</b>	<b>45</b>	<b>45</b>	<b>50</b>	<b>46</b>
志々小学校	第1学年	3	4	2	0	6	1	2	2	4	1
	第2学年	2	3	3	2	0	6	1	2	2	4
	第3学年	4	2	4	3	2	0	6	1	2	2
	第4学年	0	4	2	4	3	2	0	6	1	2
	第5学年	0	0	4	1	4	3	2	0	6	1
	第6学年	7	0	0	4	1	4	3	2	0	6
	児童数合計	<b>16</b>	<b>13</b>	<b>15</b>	<b>14</b>	<b>16</b>	<b>16</b>	<b>14</b>	<b>13</b>	<b>15</b>	<b>16</b>
小学校合計	第1学年	35	21	27	29	23	12	23	30	28	26
	第2学年	29	34	20	26	29	23	12	23	30	28
	第3学年	35	28	35	20	26	29	23	12	23	30
	第4学年	36	36	28	34	20	26	29	23	12	23
	第5学年	30	36	36	27	34	20	26	29	23	12
	第6学年	41	29	37	36	27	34	20	26	29	23
	児童数合計	<b>206</b>	<b>184</b>	<b>183</b>	<b>172</b>	<b>159</b>	<b>144</b>	<b>133</b>	<b>143</b>	<b>145</b>	<b>142</b>

【資-図表 16 学校別 生徒数の推移と今後の見込み(中学校)】

		R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)
赤来中学校	第1学年	23	22	21	23	21	16	20	5	19	15
	第2学年	23	23	22	20	23	21	16	20	5	19
	第3学年	12	23	24	22	20	23	21	16	20	5
	生徒数合計	<b>58</b>	<b>68</b>	<b>67</b>	<b>65</b>	<b>64</b>	<b>60</b>	<b>57</b>	<b>41</b>	<b>44</b>	<b>39</b>
頓原中学校	第1学年	10	19	9	12	14	12	14	13	6	11
	第2学年	26	10	19	9	12	14	12	14	13	6
	第3学年	10	26	10	19	9	12	14	12	14	13
	生徒数合計	<b>46</b>	<b>55</b>	<b>38</b>	<b>40</b>	<b>35</b>	<b>38</b>	<b>40</b>	<b>39</b>	<b>33</b>	<b>30</b>
中学校合計	第1学年	33	41	30	35	35	28	34	18	25	26
	第2学年	49	33	41	29	35	35	28	34	18	25
	第3学年	22	49	34	41	29	35	35	28	34	18
	生徒数合計	<b>104</b>	<b>123</b>	<b>105</b>	<b>105</b>	<b>99</b>	<b>98</b>	<b>97</b>	<b>80</b>	<b>77</b>	<b>69</b>

## ② 学級数の今後の見込み

令和5(2023)年度は、町内4つの小学校のうち3校で複式学級が編成され、令和6(2024)年度以降は【資-図表19】のとおり、すべての小学校で複式学級が編成される見込みとなっている。

また、学校によっては児童が不在となる学年が生じるなど、学級数については、今後さらに減少していくものと推測される。

中学校は、2校とも単式学級の編成となっているが、【資-図表14】の推計によると、令和9(2027)年度に生徒が減少する見込みとなっている。

【資-図表 17 小学校の今後の学級数の見込み(R5—R11)】 ※特別支援学級数は除く

	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)
頓原小学校	6	5	5	5	4	5	5
志々小学校	3	3	3	3	3	3	3
赤名小学校	5	5	5	5	5	5	4
来島小学校	4	4	4	5	4	5	4
計	18	17	17	18	16	18	16

【資-図表 18 中学校の今後の学級数の見込み(R5—R11)】 ※特別支援学級数は除く

	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)
頓原中学校	3	3	3	3	3	3	3
赤来中学校	3	3	3	3	3	3	3
計	6	6	6	6	6	6	6

【資-図表 19 小学校の今後の複式学級数の見込み(R5—R11)】

	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)
頓原小学校	0	1	1	1	2	1	1
志々小学校	2	2	2	2	2	2	3
赤名小学校	1	1	1	1	1	1	2
来島小学校	2	2	2	1	2	1	2
計	5	6	6	5	7	5	8

出典：飯南町教育委員会

「島根県の複式学級指導の手引き」では、1・2年生は8人以下の場合、3・4年生と5・6年生は、16人以下の場合には複式学級とするように学級編成基準が定められている。

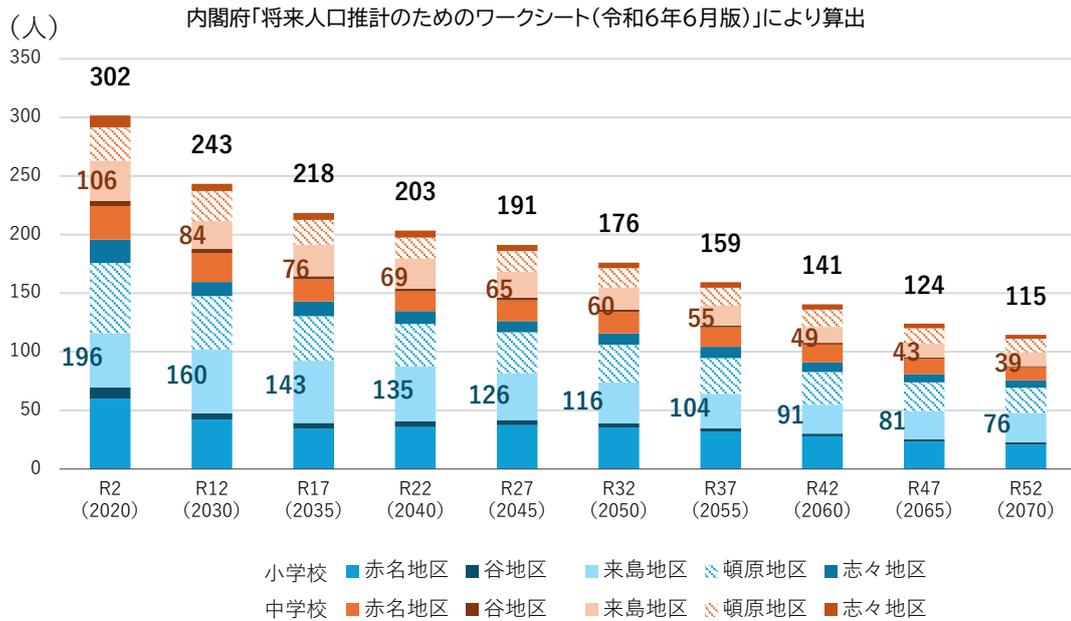
この基準に基づき、飯南町では【資-図表19】のとおり、令和5年度は志々小学校で2学級、来島小学校で2学級、赤名小学校で1学級の複式学級が編成されているが、今後の児童数の減少によっては、さらに複式学級が増える傾向にある。

また、児童数が極端に少ない学年があると、複式学級と単式学級を繰り返す場合がある。なお、中学校においては、8人以下であってもすべて「単式学級」として編成されている。

### ③ 小中学生人口の将来予測

令和2(2020)年から令和52(2070)年の小中学生人口の将来予測では、令和22(2040)年は小学生と中学生を合わせ 203 人と見込まれ、令和2(2020)年と比べ 99 人減(△32.8%)と推計される。令和52(2070)年は小学生と中学生を合わせ 115 人と見込まれ、2020(令和2)年と比べ 187 人減(△62.0%)と推計される。

【資-図表 20 小中学生人口の将来予測(2020—2070 年)】



【資-図表 21 小中学生人口の将来予測(2020—2070 年)】

	R2 (2020)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	2020 年比(%)	R27 (2045)	R32 (2050)	R37 (2055)	R42 (2060)	R47 (2065)	R52 (2070)	2020 年比(%)
赤名地区	60	42	34	36	-40.5%	37	35	32	28	23	21	-65.6%
谷地区	10	6	5	5	-47.4%	4	4	3	2	2	2	-76.3%
来島地区	46	54	53	47	1.3%	40	35	29	25	24	25	-46.3%
頓原地区	60	46	38	36	-39.8%	35	32	31	28	25	22	-64.1%
志々地区	20	12	12	11	-43.9%	10	10	10	8	7	6	-67.2%
小学生人口	196	160	143	135	-31.1%	126	116	104	91	81	76	-61.2%
赤名地区	29	25	19	17	-42.1%	18	18	17	15	13	11	-61.8%
谷地区	4	3	3	3	-43.2%	2	2	2	1	1	1	-78.4%
来島地区	34	24	27	25	-26.0%	22	19	17	14	12	12	-65.7%
頓原地区	28	26	21	18	-36.3%	18	17	15	15	13	12	-59.1%
志々地区	10	6	6	6	-40.9%	5	5	5	5	4	3	-66.6%
中学生人口	106	84	76	69	-35.3%	65	60	55	49	43	39	-63.5%
小中学生人口	302	243	218	203	-32.5%	191	176	159	141	124	115	-62.0%

出典：飯南町教育委員会（独自算出）

#### ○推計手法

内閣府「将来人口推計のためのワークシート(令和6年6月版)」により算出

当該ワークシートは、コーホート要因法により将来人口を算出するものである。

コーホート要因法は、ある年の男女、年齢別人口を基準として、ここに出生・死亡・移動に関する仮定値をあてはめて将来人口を算出する方法である。本推計においては以下の条件のもとに将来人口を算出した。

- ・「国勢調査」による、令和2(2020)年10月1日現在、市区町村、男女、年齢5歳階級別人口(総人口)を基準人口に用いた。
- ・「女性子ども比」は、令和2(2020)年における20~39歳の女子人口と0~4歳人口の比率が今後も一定であると仮定し推計する。
- ・生存率及び純移動率は、飯南町(全体)のパラメータを使用する。
- ・小学生数は、5~9歳男女人口に3/5、10~14歳人口に3/5を乗じて計算。
- ・中学生数は、10~14歳男女人口に2/5、15~19歳人口に1/5を乗じて計算する。

## 課題② 各地区での児童・生徒の確保

全校児童 15 人未満かつ3学級以下となる場合は教職員定数配置基準により教職員定数が1人減になり、このような規模の学校を答申においては、「極小規模校」と位置づけている。極小規模校となった場合は、教頭が学級担任をするか教頭無配置校となり学校の運営に支障をきたすことが考えられる。

志々小学校が令和8(2026)年度から、特別支援学級の状況によっては極小規模校となる可能性がある。

小中学生の人口減少が見込まれる中、児童・生徒の確保が課題となるとともに、場合によっては、学校の再編も含め、あり方を検討することが必要である。

## 2.3 学習状況・学習環境

### ① 全国学力・学習状況調査の結果

全国調査の平均正答率を比較すると、小学校では、令和4(2022)年は全ての教科で国や島根県より低い傾向がみられ、令和5(2023)年は国語で全国、島根県と比べて高かった。

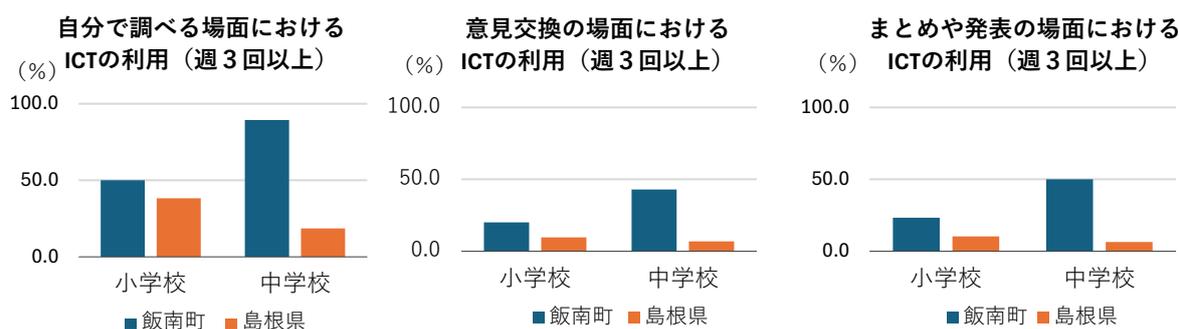
中学校では、国語、数学、理科は全国と概ね同程度であるが、英語は全国と比べて低い水準にある。

### ② ICT 教育の状況

ICT の利用割合は自分で調べる場面、意見交換の場面、まとめや発表の場面いずれにおいても県と比較しても高い水準にある。

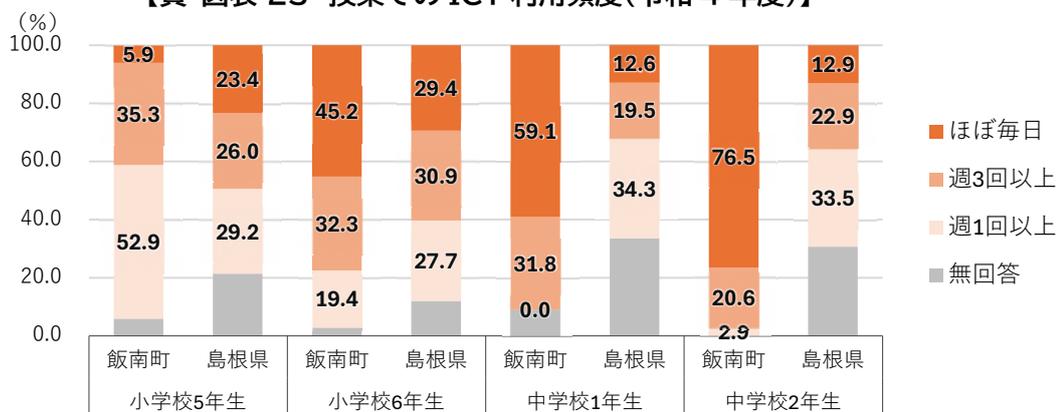
令和 4(2022)年の授業での ICT 利用は学年が上がるにつれて頻度が高くなる傾向がみられる。中学校では 1 年生で約 6 割、2 年生では約 8 割がほぼ毎日使用しており、島根県と比べても頻度が多い。

【資-図表 22 自分で調べる場面・意見交換の場面・まとめや発表の場面における ICT の利用】



出典：R4 全国学力・学習状況調査

【資-図表 23 授業での ICT 利用頻度(令和 4 年度)】

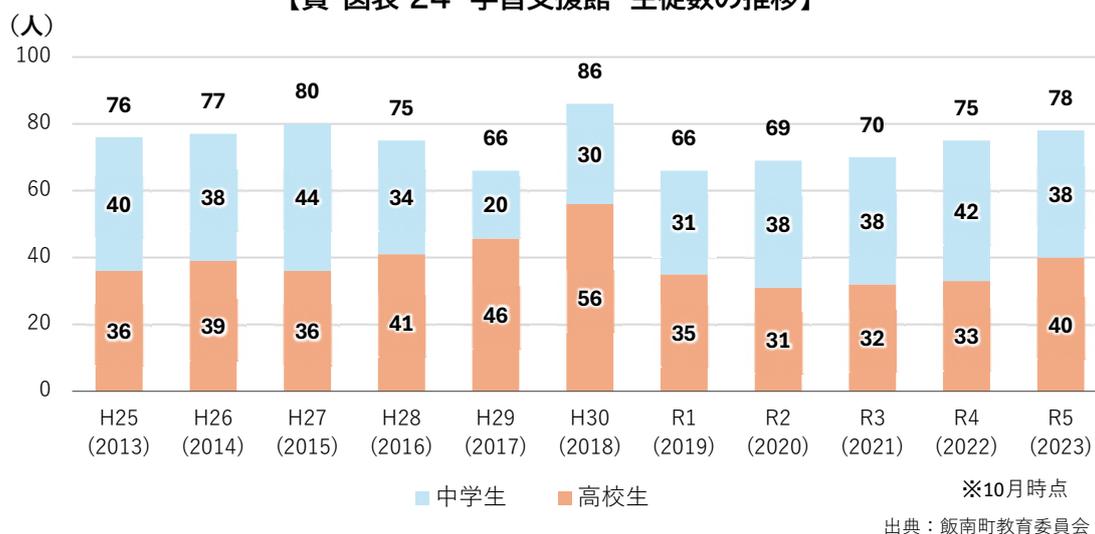


出典：R4 全国学力・学習状況調査

### ③ 学習支援館の生徒数・講師数

町内の中学生、高校生を対象に学習支援を行う学習支援館の生徒数は60人～80人程度で推移しており、平成30(2018)年には高校生の増加により86人と最も多くなっている。令和元(2019)年以降は増加傾向にあり、令和5(2023)年には78人となっている。講師は5～7人程度を確保している。

【資-図表 24 学習支援館 生徒数の推移】



### 課題③ 教育環境の変化への対応

飯南町では、ICT 教育の導入や学習支援館の設置など、教育環境を充実させる取り組みが進められている。

中学校が再編された場合は、教育環境の大きな変化が想定される。新しい環境に対する精神的不安や通学時間の増加による身体的疲労に加え、家庭学習時間の確保が難しくなることも想定される。

環境の変化による生徒への負担の軽減のため、生徒一人一人に合わせたきめ細やかな対応や学習環境の確保が必要である。

## 2.4 学校施設の状況

### ① 公共施設等管理における学校施設の在り方に関する基本的な方針

飯南町公共施設等総合管理計画(平成29(2017)年3月策定)において、学校施設の在り方に関する基本方針は、以下の通り定義されている。

校舎、屋内運動場については、併設や統合により適正化を図ったうえで、耐震化完了を目指します。耐震化完了後は、適切に維持管理し長寿命化を図ります。

調理場については、児童生徒数の推移や職員数等を勘案し、適切に維持管理し長寿命化を図ります。

### ② 学校施設の状況

町立小学校校舎の築年数のうち、志々小学校が昭和28(1953)年に竣工しており築71年が経過している。頓原小学校は、平成14(2002)年に竣工しており、最も新しい施設である。

中学校では、頓原中学校が昭和55(1980)年、赤来中学校が昭和47(1972)年に竣工しており、いずれも築50年前後が経過している。校舎及び屋内運動場の面積規模では、いずれも同程度だが、敷地面積は赤来中学校 47,800 m<sup>2</sup>に対し、頓原中学校は 6,568 m<sup>2</sup>であり、面積規模が小さい。

【資-図表 25 学校施設の竣工年、面積及び規模等】

※令和 2(2020)年 4 月 1 日時点

	学校名	竣工年	築年数	敷地面積	校舎面積	屋内運動場面積	その他施設面積	児童生徒数(人)		学級数(学級)	
								通常学級	特別支援学級	通常学級	特別支援学級
小学校	頓原小学校	H14	18	11,150 m <sup>2</sup>	2,925 m <sup>2</sup>	1,300 m <sup>2</sup>		60	2	6	2
	志々小学校	S28	67	4,993 m <sup>2</sup>	1,568 m <sup>2</sup>			13	3	3	2
	赤名小学校	S60	35	13,598 m <sup>2</sup>	2,075 m <sup>2</sup>	1,192 m <sup>2</sup>		68	11	6	3
	来島小学校	H4	28	22,695 m <sup>2</sup>	2,265 m <sup>2</sup>	1,112 m <sup>2</sup>		40	8	4	3
小学校小計				52,436 m <sup>2</sup>	8,833 m <sup>2</sup>	3,604 m <sup>2</sup>		181	24	19	10
中学校	頓原中学校	S55	40	6,568 m <sup>2</sup>	2,681 m <sup>2</sup>	1,324 m <sup>2</sup>		46		3	
	赤来中学校	S47	48	41,232 m <sup>2</sup>	2,701 m <sup>2</sup>	1,175 m <sup>2</sup>		55	3	3	3
中学校小計				47,800 m <sup>2</sup>	5,382 m <sup>2</sup>	2,499 m <sup>2</sup>		101	3	6	3
調理場	飯南町学校給食共同調理場	H5	27	1,301 m <sup>2</sup>			333 m <sup>2</sup>				
調理場小計				1,301 m <sup>2</sup>			333 m <sup>2</sup>				
小計				101,537 m <sup>2</sup>	14,215 m <sup>2</sup>	6,103 m <sup>2</sup>	333 m <sup>2</sup>	282	27	25	13
	施設面積				20,651 m <sup>2</sup>						

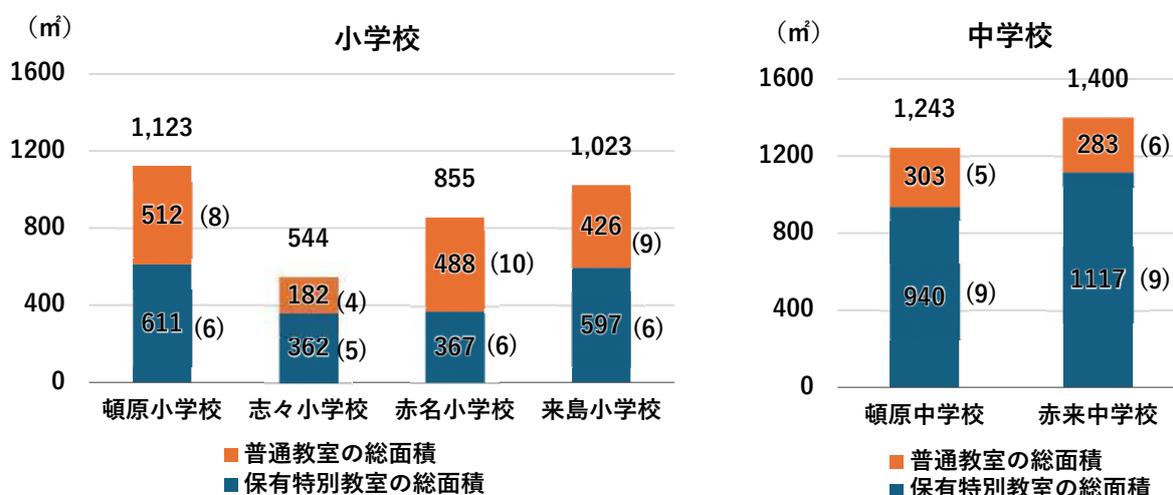
出典：飯南町教育委員会

### ③ 教室数及び教室の総面積

各学校の教室の総面積は、小学校では頓原小学校が最も大きく1,123㎡、次いで来島小学校が1,023㎡である。赤名小学校は教室数が16室と最も多いが、総面積でみると頓原小学校や来島小学校と比べて小さい。

中学校では、赤来中学校が1,400㎡と頓原中学校より200㎡程度面積が大きい。赤来中学校では普通教室が6室と頓原中学校と比べて一室多いが、総面積は小さい。

【資-図表 26 各学校の教室の総面積、教室数(令和5年度)】 ※()内は教室数



出典：飯南町教育委員会

【資-図表 27 各学校の児童生徒数・学級数及び教室数(令和5年度)】

学校名	生徒数 (人)	学級数 (学級)	教室数(室)											
			普通 教室	特別教室										
				理科	音楽	図画 工作	美術	技術	家庭	コンピ ューター	図書 室	特別 活動	教育 相談	
頓原小学校	57(3)	6(1)	8	6	1	1			1	1	1		1	
志々小学校	14(1)	4(1)	4	5	1	1			1		1			
赤名小学校	60(6)	6(1)	10	6	1	1			1	1	1		1	
来島小学校	42(3)	5(1)	9	6	1	1			1		2		1	
頓原中学校	39(2)	4(1)	5	9	1	1		1	1	2	1	1	1	
赤来中学校	65(8)	4(1)	6	9	1	1		1	1	2	1	1	1	

※( )…うち特別支援学級生徒数・学級数

出典：飯南町教育委員会

#### ④ 老朽化の状況

施設の健全度は、志々小学校校舎が 36 点、飯南町学校給食共同調理場が 53 点となっており、そのほか施設は 70 点以上である。

志々小学校校舎は、外壁が D 判定、屋根・屋上、内部仕上、電気設備が C 判定となっており、飯南町学校給食共同調理場は、内部仕上げ、電気設備、機械設備が C 判定となっており改良が必要である。

志々小学校校舎は、新耐震基準及び長寿命化対策が必要であるため、対策に向けて現在調査中である。

【資-図表 28 学校施設の老朽化の状況(令和2年度)】

No.	施設名	建物名	建物用途	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度		築年数	構造躯体の健全性			長寿命化判定	劣化状況評価					健全度 (100点満点)
							西暦	和暦		耐震安全性				屋上根	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	
										基準	診断	補強							
1	頓原小学校	校舎	校舎	RC	2	2,925	2002	H14	18	新			長寿命	A	A	A	B	B	94
2	頓原小学校	屋内運動場	体育館	S	1	1,300	2002	H14	18	新			長寿命	A	B	A	B	B	87
3	志々小学校	校舎	校舎	W	2	1,568	1953	S28	67	旧				C	D	C	C	B	36
4	赤名小学校	校舎1	校舎	RC	2	1,894	1985	S60	35	新			長寿命	A	A	B	C	B	80
5	赤名小学校	校舎2	校舎	RC	1	179	1985	S60	35	新			長寿命	A	A	A	C	B	89
6	赤名小学校	屋内運動場	体育館	RC	2	1,192	1985	S60	35	新			長寿命	A	A	A	C	B	89
7	来島小学校	校舎	校舎	RC	2	2,265	1992	H4	28	新			長寿命	A	B	B	C	B	73
8	来島小学校	屋内運動場	体育館	RC	2	1,112	1992	H4	28	新			長寿命	A	B	B	C	B	73
9	頓原中学校	校舎1	校舎	RC	3	1,912	1980	S55	40	旧	済	-	長寿命	A	B	B	B	B	77
10	頓原中学校	校舎2	校舎	RC	2	585	1980	S55	40	旧	済	-	長寿命	C	B	B	B	B	72
11	頓原中学校	校舎3	校舎	RC	1	184	1981	S56	39	旧	済	済	長寿命	A	B	B	B	B	77
12	頓原中学校	屋内運動場	体育館	RC	2	1,324	1981	S56	39	旧	済	済	長寿命	A	B	B	B	B	77
13	赤来中学校	校舎	校舎	RC	3	2,701	1972	S47	48	旧	済	-	長寿命	A	A	A	C	B	89
14	赤来中学校	屋内運動場	体育館	S	2	1,175	1972	S47	48	旧	済	済	長寿命	A	A	B	B	B	84
15	飯南町学校給食共同調理場	共同調理場センター	給食センター	RC	1	333	1993	H5	27	新			長寿命	B	B	C	C	C	53

A : 概ね良好

C : 広範囲に劣化

B : 部分的に劣化

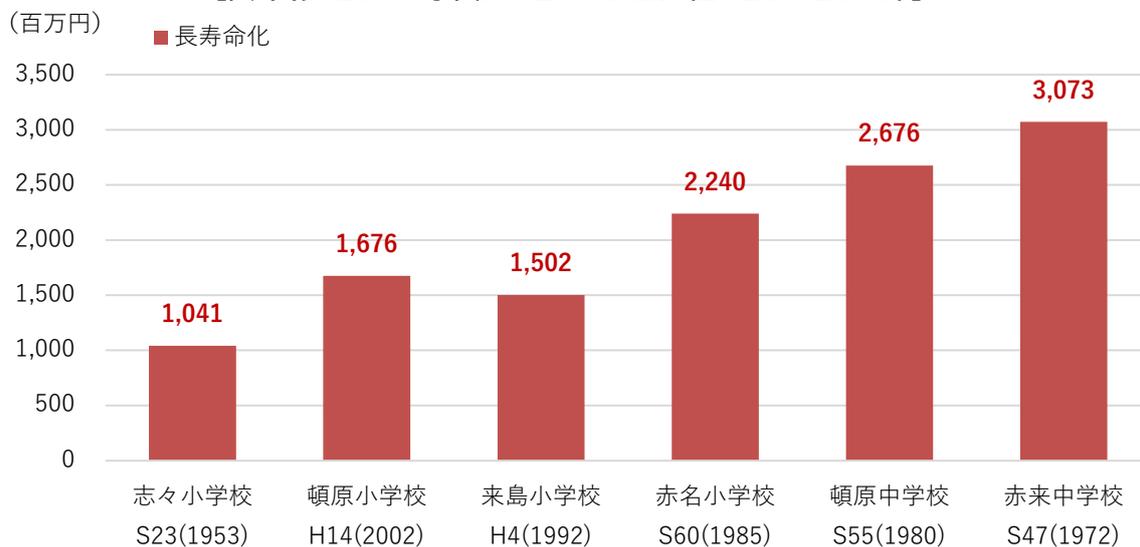
D : 早急に対応する必要がある

出典：飯南町教育委員会

## ⑤ 工事費シミュレーション

令和2(2020)年～令和52(2070)年の50年間の長寿命化のコストを比較すると、赤来中学校が最も高く長寿命化で 3,073 百万円、頓原中学校は 2,676 百万円である。

【資-図表 29 工事費シミュレーション(2020～2070)】



出典：飯南町立小中学校施設外劣化状況調査

### 課題④ 学校施設の維持管理

町内の小中学校の施設は、総じて老朽化が進んでおり、施設劣化への対応が今後さらに増加することが想定される。校舎や屋内運動場について、これまでも計画的に大規模改修や耐震補強工事を実施してきたものの、それ以降も毎年小規模な改修が必要である。

今後も施設の劣化状況や改修にかかる費用を適切に把握し、対応していくことが必要である。

また、中学校が再編される場合には、校舎の整備や教室の確保が必要となる。また、再編後、使われなくなった校舎の利活用方法についても今後検討が必要である。

## 2.5 スクールバスの状況

### ① 令和12(2030)年のスクールバス運行シミュレーションの比較

令和12(2030)年のスクールバス利用者の見込み数を比較すると、頓原中学校校舎を使用する場合が79人と最も多い。一方で、頓原中学校の場合は現在スクールバスの対象となっていない上赤名、畑田など、町内全域の遠距離通学生を利用対象者とすることが可能となり、町内全域の遠距離通学生に必要な支援ができる。(【資-図表 30】参照)

必要となる運行委託費やバス購入費は頓原中学校校舎を使用する場合が赤来中学校に比べて高額となっているものの、一人当たりの費用は安価である。(【資-図表 31】参照)

最大乗車時間は赤来中学校校舎を使用する場合が55分程度(角井-赤来中学校間)となることに対して、頓原中学校では45分程度(畑田-頓原中学校間)となっている。(【資-図表 31】参照)

また、赤来中学校校舎を使用する場合は、現況より通学時間が長くなることから志々地区からの一般混乗便をスクール専用として、農道経由の運行ルートに変更する必要があるため、地域住民への影響が想定される。(【資-図表 31】参照)

【資-図表 30 令和12(2030)年のスクールバス利用者の見込み数】

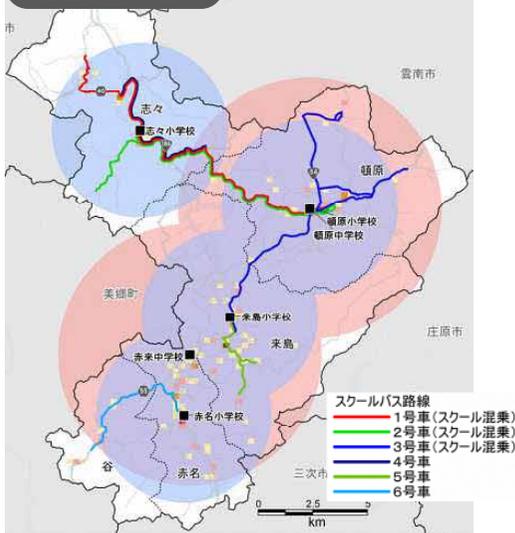
中学校区	小学校区	地区区分	小地域	再編しない		頓原中学校の校舎を使用		赤来中学校の校舎を使用		来島地区に新設	
				中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校
赤来	赤名	赤名	上赤名			12				12	
			赤名			2					
			下赤名			10					
		谷	塩谷	1	0	1		1	0	1	
			井戸谷	1	2	1		1	2	1	
			畑田	0	0	0		0	0	0	
	来島	来島	上来島			6					
			真木	4	3	4		4		4	
			小田	5	3	5		5		5	
			野萱		8						
下来島				4							
頓原	頓原	頓原	長谷	0		0		0	0	0	0
			都加賀	0		0		2	0	2	0
			花栗					2		2	
			佐見					1			
			頓原					19		19	
	志々	志々	角井	2	1	2	1	2	1	2	1
			志津見	3	4	3	4	3	4	3	4
			八神	5		5		5		5	
			獅子	0	3	0	3	0	3	0	3
			スクールバス利用者計		10	19	60	19	34	19	47
パターン別合計				29		79		53		66	

※青字…遠距離通学生(上赤名、畑田)

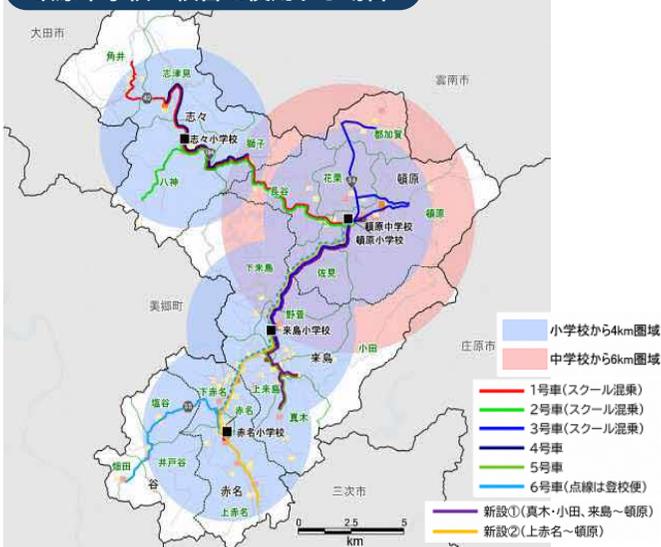
出典：スクールバスの運用検討業務

【資-図表 31 令和 12(2030)年のスクールバス経路・乗車人数等 比較表】

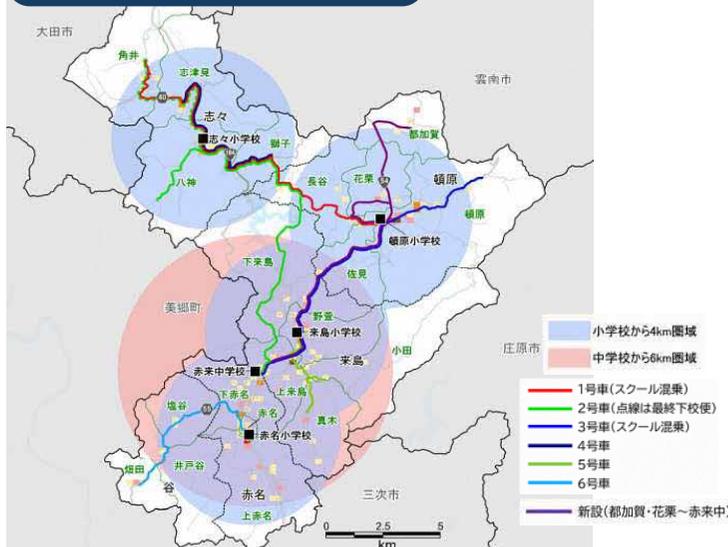
再編しない場合



頓原中学校の校舎を使用する場合



赤来中学校の校舎を使用する場合



車両(定員)	対象地域	中学生	小学生	使用している学校	運用形態
1号車(28人)	角井・志津見	5人	1人	頓原中	登校: 一般混乗
2号車(28人)	八神(中学生) 長谷(小学生)	5人	0人	頓原中 頓原小	下校: スクール専用
3号車(28人)	都加賀・奥畑	0人	0人	頓原小	スクール専用
4号車(13人)	志津見・獅々	—	7人	志々小	
5号車(13人)	小田・真木	—	9人	来島小	
6号車(14人)	塩谷・井戸谷・畑田 ※谷地区全域	—	2人	赤名小	

車両	対象地域	変更内容	所要時間(推定)	乗車人数
1号車	角井・志津見	現状維持	34分	中学:5人 小学:1人
2号車	八神(中学生) 長谷(小学生)	現状維持	38分	中学:5人 小学:0人
3号車	都加賀・奥畑	スクールの利用者がいない見込みだが、一般の利用を加味して路線を維持	37分	0人
4号車	志津見・獅々	現状維持	25分	中学:0人 小学:7人
5号車	小田・真木	現状維持	20分	中学:0人 小学:9人
6号車	塩谷・井戸谷・畑田 ※谷地区全域	・登校便は頓原中まで運行 ・下校便は赤名小(または道の駅赤来高原)から運行し、中学生は新設②から乗換利用	15分～ 45分	中学:2人 ※下校便は新設②から乗り換え 小学:2人
新設①(28人)	小田・真木、 上来島・野萱 下来島	・5号車・6号車での対応が難しいため新設	35分	中学:24人 小学:0人
新設②(28人)	上赤名・赤名 下赤名	・5号車・6号車での対応が難しいため新設 ・下校便のみ谷地区の生徒も利用し、赤名(小学校・道の駅)で6号車に乗換	40分	26人 ※うち2人は谷地区の生徒

車両	対象地域	変更内容	所要時間(推定)	乗車人数
1号車	角井・志津見・ 長谷(小学生)	現状維持しつつ、中学生は「さつき会館」で2号車に乗り換え効率化	34分	小学:1人 中学:5人→0人 ※中学生は2号車へ乗換
2号車	八神(中学生)	・中学校の専用バスとして「さつき会館」で1号車の中学生が乗換乗車し、赤来中まで路線を延伸(農道経由) ・下校便の最終便は角井まで延伸	40分～ 55分	小学:0人 中学:5人→10人 ※1号車から乗換で角井方面の中学生が利用
3号車	頓原・佐見	・花栗・都加賀を切り離して頓原(奥畑)から赤来中学校まで運行	35分	小学:0人 中学:20人
4号車	志津見・獅々	現状維持	25分	小学:7人 中学:0人
5号車	小田・真木	現状維持	30分	小学:9人 中学:0人
6号車	塩谷・井戸谷・畑田 ※谷地区全域	現状維持	15分	小学:2人 中学:0人
新設(13人)	花栗・都加賀	・花栗・都加賀(奥畑)を3号車から切り離して新設	40分	小学:0人 中学:4人

来島地区に校舎を新設する場合

通学時間平均	26分(最大通学時間 45分)
年間運行委託費	29,396,400円/年
増車車両・車両購入費	13人乗りワンボックスカー(2台) 9,000,000円

通学時間平均	35分(最大通学時間 45分)
年間運行委託費	29,396,400円/年
増車車両・車両購入費	28人乗りマイクロバス(2台) 19,600,000円

通学時間平均	38分(最大通学時間 55分)
年間運行委託費	25,502,400円/年
増車車両・車両購入費	13人乗りワンボックスカー(2台) 4,500,000円

出典：スクールバスの運用検討業務

## 2.6 志々小学校耐震診断

志々小学校の耐震診断を行った結果、「耐震基準を満たしていない建物であり、補強を要する」との判定結果となった。

ただし、志々小学校については、要所要所に筋交いがバランスよく配置されていて、加えて柱や梁も太い事等から、補強工事の他、対策が行われるまでの間は安全対策を行いながら現校舎を使用することが可能との報告がされている。

診断結果

X 方向(桁行方向) **最小値 0.53**

Y 方向(張間方向) **最小値 0.66**

●耐震性の評価(震度 6 強～震度 7 レベルの大地震での安全確保)

1.5 以上	◎ 倒壊しない
1.0 以上～1.5 未満	○ 一応倒壊しない
0.7 以上～1.0 未満	△ 倒壊する可能性がある
0.7 未満	× 倒壊する可能性が高い

【資-図表 32 志々小学校の耐震化工事、新校舎建設費用(概算)】

項目		費用
<b>① 志々小学校(校舎棟・管理棟)の耐震化に要する費用</b>		<b>696,400 千円</b>
内 訳	仮設校舎設置・撤去(リース 2 年)	175,000 千円
	基礎・躯体補強工事	148,700 千円
	その他(撤去、内外装等)	372,700 千円
<b>② 志々小学校(校舎棟)の耐震化に要する費用</b>		<b>486,234 千円</b>
内 訳	仮設校舎設置・撤去(リース 2 年)	175,000 千円
	基礎・躯体補強工事	148,700 千円
	その他(撤去、内外装等)	372,700 千円
<b>③ 新校舎建設にかかる費用</b>		<b>857,000 千円</b>
内 訳	仮設校舎設置・撤去(リース 2 年)	175,000 千円
	新校舎建設(RC2 階建て)	627,000 千円
	その他(撤去、外構整備等)	55,000 千円

※別途、詳細設計、施工監理、備品類等の費用が必要となる。



出典：志々小学校耐震診断調査

## 2.7 飯南高校の状況

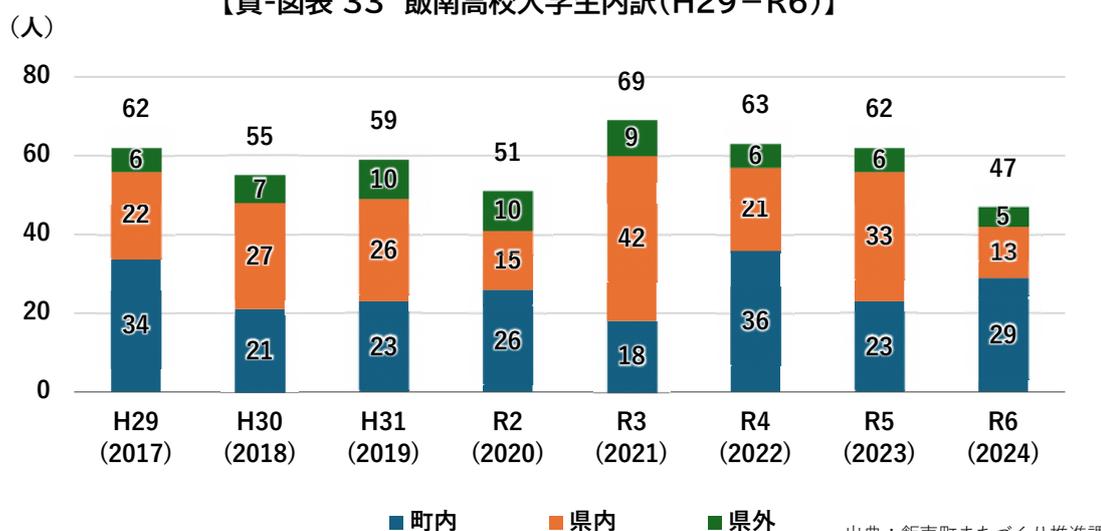
### ① 飯南高校入学生内訳と予測

飯南高校の入学生は、令和3(2021)年度以降 30～70 人程度で推移している。

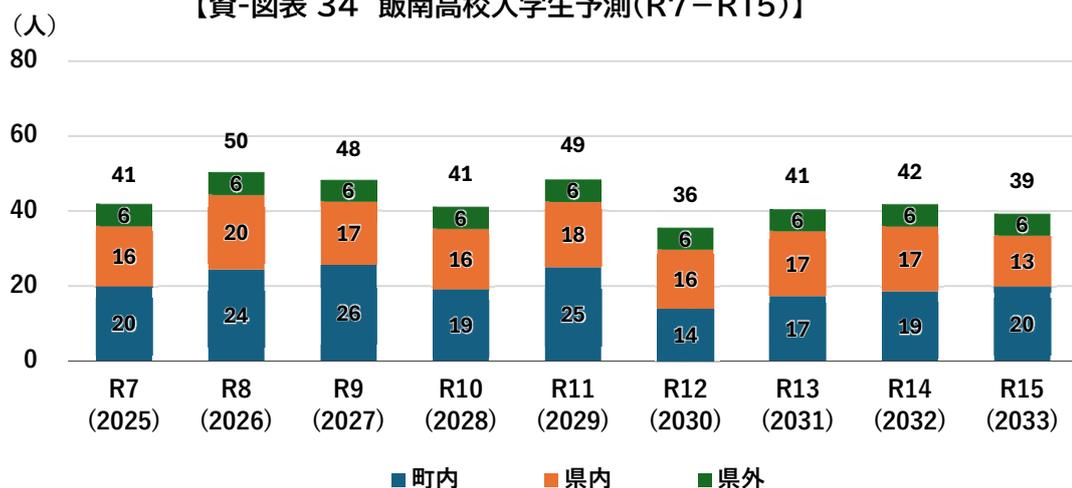
令和5(2023)年度の入学生は62人で、そのうち町内中学校卒業生は23人、県内生徒が33人、県外からの「地域みらい留学生<sup>7</sup>」が6人となっている。

小中学生児童・生徒数に基づく飯南高校入学生の予測では、令和6(2024)年度以降は、概ね40人台を推移し、令和12(2030)年度に30人台となることが予測されており、小中学校の児童・生徒の減少は、飯南高校の生徒確保の面でも大きな課題となっている。

【資-図表 33 飯南高校入学生内訳(H29-R6)】



【資-図表 34 飯南高校入学生予測(R7-R15)】



<sup>7</sup> 地域みらい留学：日本各地にある魅力的な公立高校の中から、住んでいる都道府県の枠を超えて、自分の興味関心にあった高校を選択し、高校3年間をその地域で過ごす国内進学プログラムである。(一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォームより)

## ② 中学校からの進学率

中学校から飯南高校への進学率をみると、飯南町全体で約 7 割となっている。

赤来中学校では 6 割以上が飯南高校に進学しており、令和5(2023)年は 86.4%と過去 2 年と比べて高くなっている。頓原中学校では、令和 3(2021)年、4(2022)年は約 8 割、令和 5(2023)年は 52.6%と過去 2 年と比べて低くなっている。

【資-図表 35 中学校卒業後の進路】

	年度	卒業生	進学先			その他	飯南高校 進学率
			飯南高校	その他県内	県外		
頓原 中学校	R3	26	20	6	0	0	76.9%
	R4	10	8	2	0	0	80.0%
	R5	19	10	8	0	0	52.6%
赤来 中学校	R3	23	16	7	0	0	69.6%
	R4	24	15	7	1	1	62.5%
	R5	22	19	3	0	0	86.4%
全体	R3	49	36	13	0	0	73.5%
	R4	34	23	9	1	1	67.6%
	R5	41	29	11	0	0	70.7%

出典：飯南町教育委員会

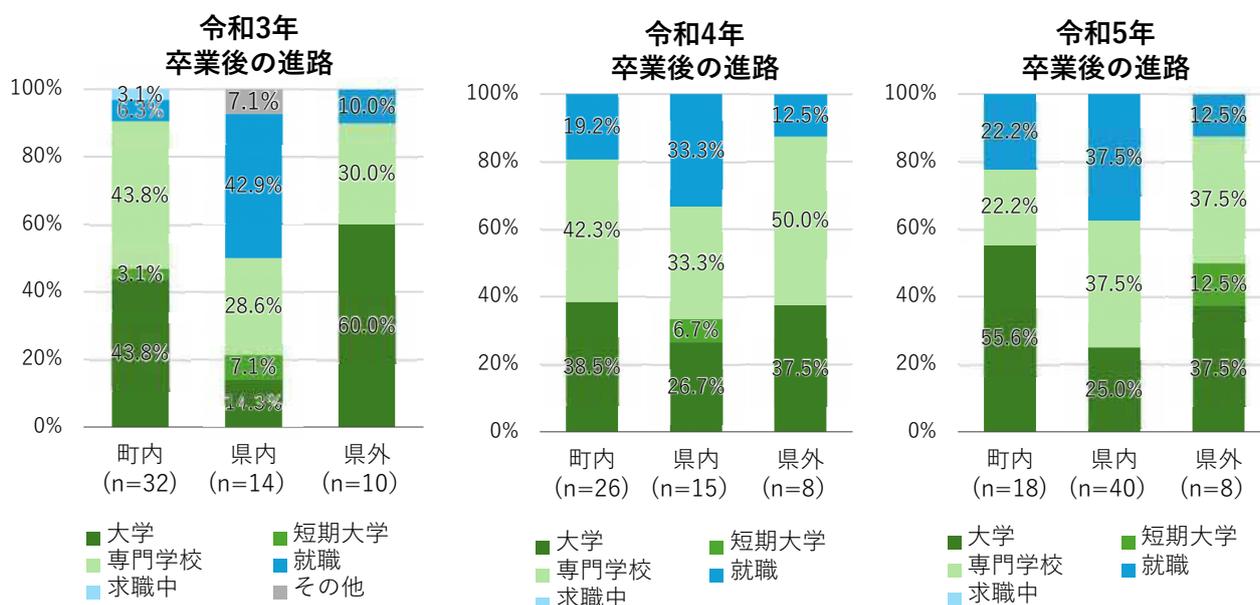
## ③ 卒業後の進路

町内、県内、県外別で卒業生の進路をみると、町内及び県外生徒の約8割以上、県内生徒の6割が進学(大学、短期大学、専門学校)している。

就職先は、雲南市、松江市が4人、出雲市が3人、広島県3人と続き、県内及び中国地方への就職が9割を占めている。

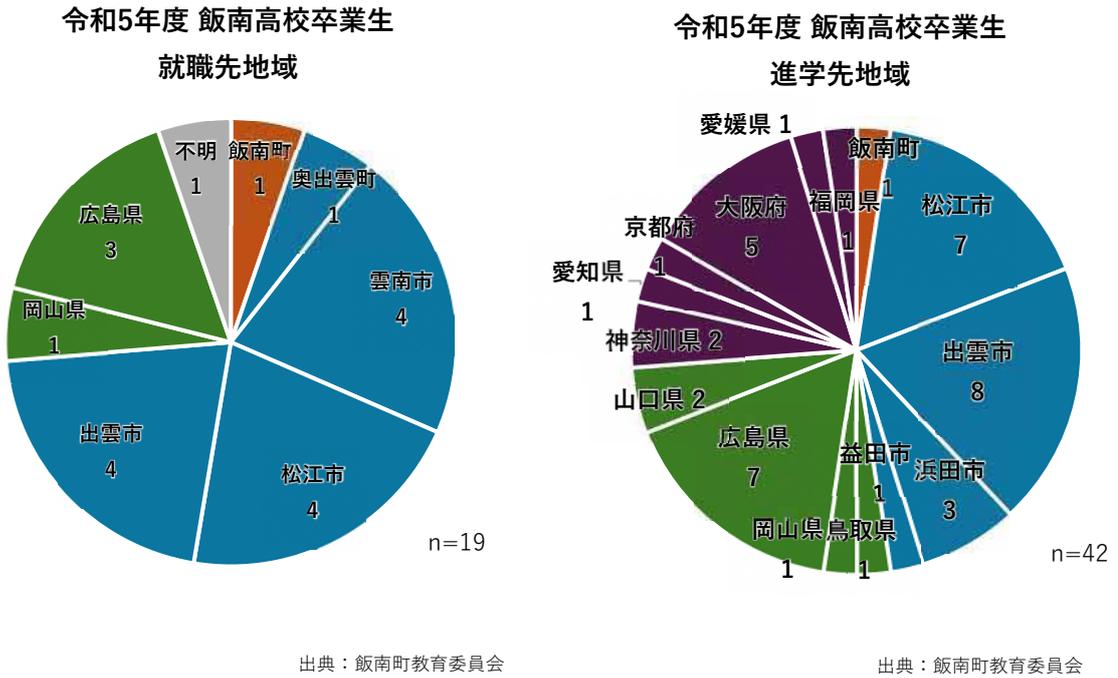
進学先では、出雲市8人、松江市7人、浜田市3人と県内への進学が5割である。

【資-図表 36 高校卒業後の進路】



出典：飯南町教育委員会

【資-図表 37 進学先、就職先の地域】

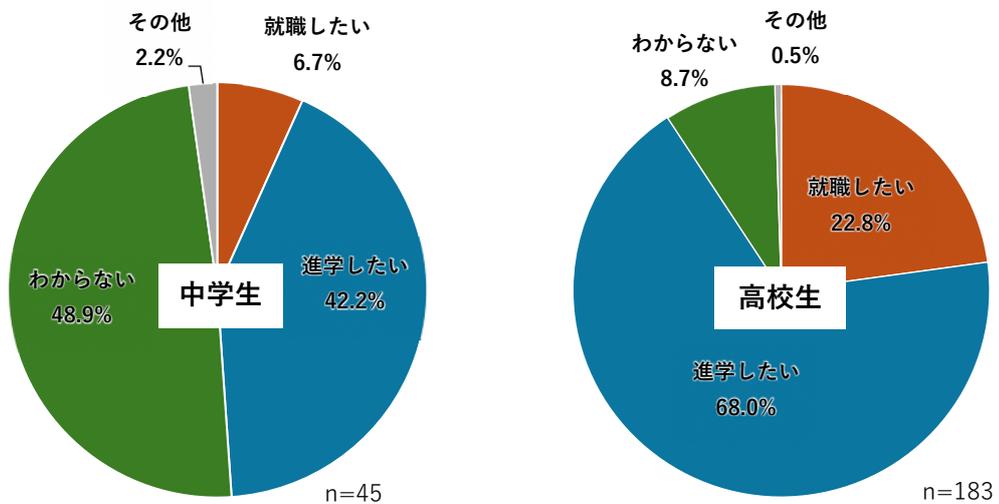


## 2.8 中高生の定住意向

### ① 高校卒業後の進路

令和 5(2023)年度に町内の中高生を対象に意識調査を実施した。「高校卒業後の進路」については、中学生では、「わからない」が 48.9%で最も多く、次いで「進学したい」が 42.2%となった。高校生では、「進学したい」が 68.0%と最も多く、約7割を占めている。

【資-図表 38 高校卒業後の進路】



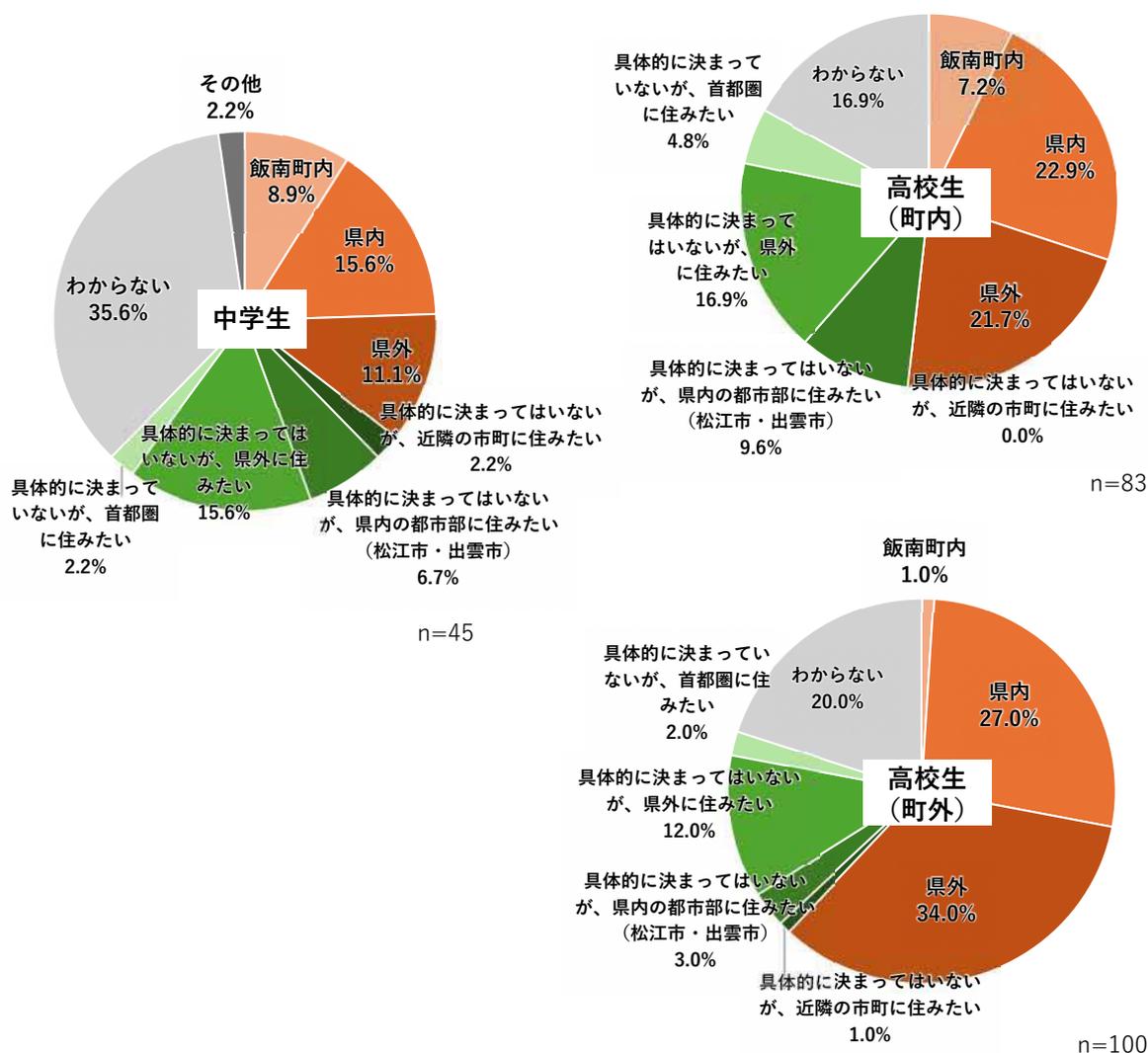
## ② 高校卒業後に居住を想定している地域

「高校卒業後に居住を想定している地域」については、中学生では、「わからない」が35.6%で最も多く、次いで「県内」と「具体的には決まっていないが県外に住みたい」が15.6%となっている。

高校生では、町内出身者と町外出身者で傾向が異なっており、町内出身者では「県内」が22.9%、「県外」が21.7%と同程度となっている。町外出身者では「県外」が34.0%と最も多く、次いで「県内」が27.0%となっている。

「飯南町内」と回答した生徒は、中学生で8.9%、高校生町内出身者で7.2%、町外出身者で1.0%であった。

【資-図表 39 高校卒業後に居住を想定している地域】



出典：第3次飯南町総合振興計画及び第3期飯南町総合戦略策定に係る中高生アンケート調査

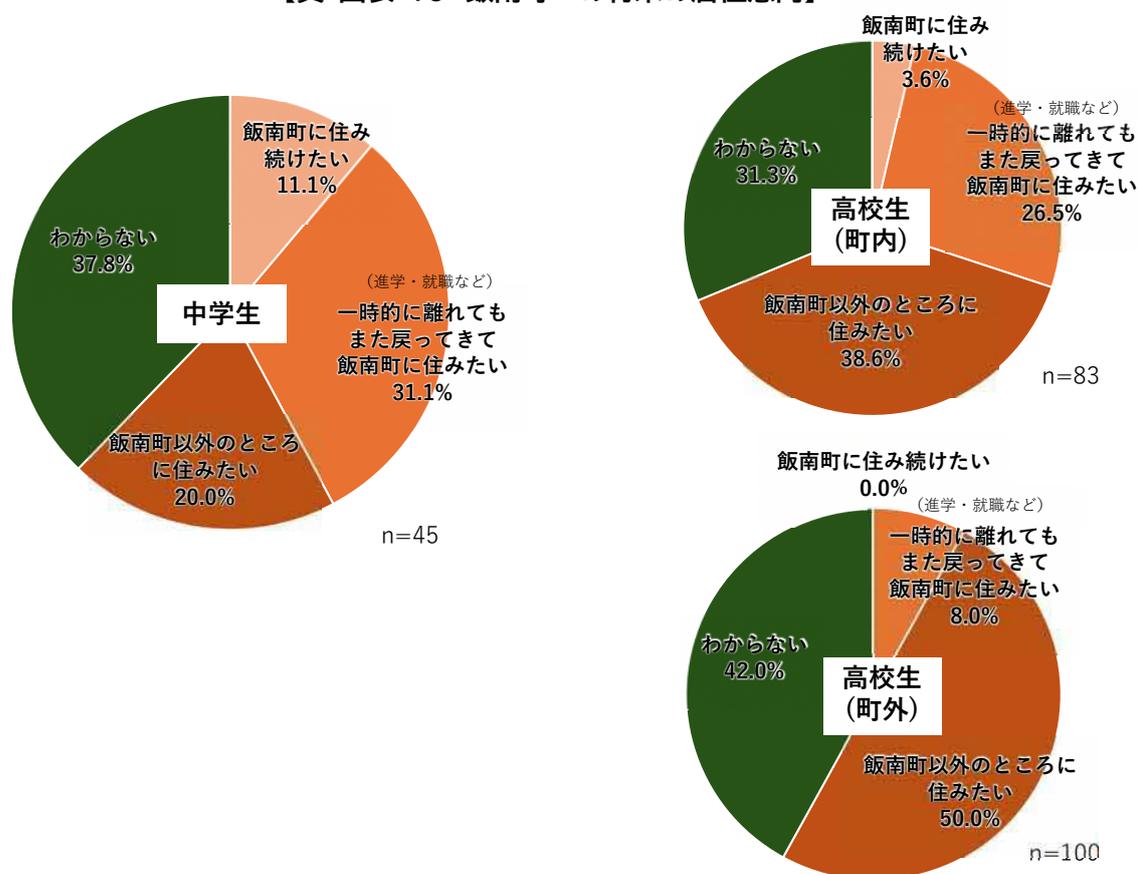
### ③ 飯南町への将来の居住意向

「将来飯南町に住みたいと思うかどうか」については、中学生では、「わからない」が37.8%で最も多く、次いで「進学・就職など一時的に飯南町を離れても、また戻って来て飯南町に住みたい」が31.1%となっている。

高校生では、町内出身者と町外出身者ともに「飯南町以外のところに住みたい」が最も多く、町内出身者では36.8%、町外出身者では50.0%であった。

飯南町への定住意向がある（「飯南に住み続けたい」「進学・就職など一時的に飯南町を離れても、また戻って来て飯南町に住みたい」と回答した生徒は、中学生で42.2%、高校生町内出身者で30.1%、町外出身者で8.0%であった。

【資-図表 40 飯南町への将来の居住意向】



出典：第3次飯南町総合振興計画及び第3期飯南町総合戦略策定に係る中高生アンケート調査

## 課題⑤ 飯南高校の生徒の確保 課題⑥ 飯南町への定住意向の醸成

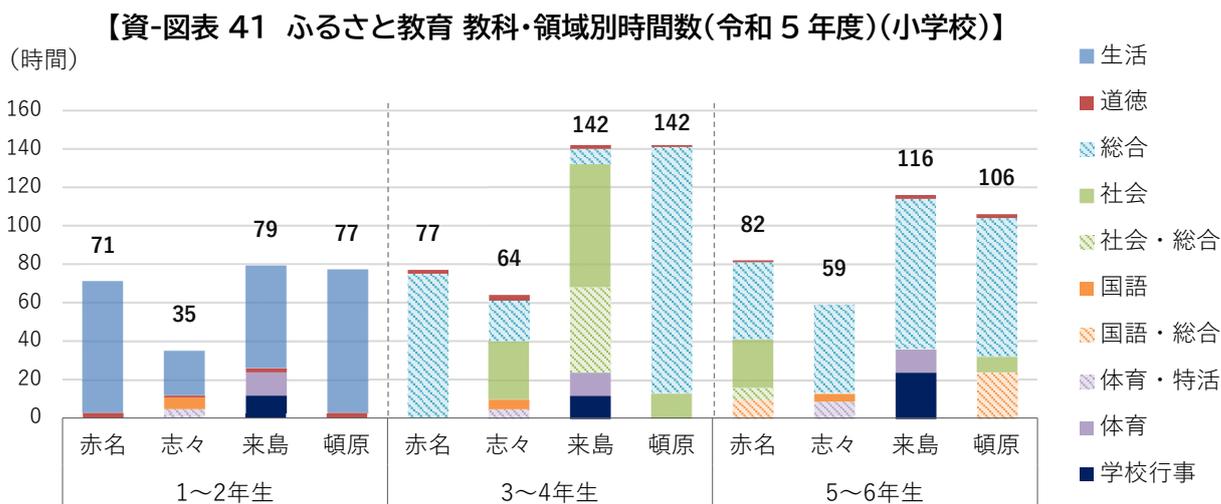
小中学校児童・生徒数に基づく飯南高校入学生の予測では、令和9(2027)年以降には50人を下回ることが予測されている。町内の中学校から飯南高校への進学率は約7割となっており、町内の小中学校の児童・生徒が減少する中、生徒の確保が課題となる。

また、進学・就職など一時的に飯南町を離れる場合も含め、将来飯南町への居住意向がある生徒の割合は、町内出身者は約3割、町外出身者は約1割にとどまっており、飯南町に戻りたいと思う生徒を増やすことも課題となる。

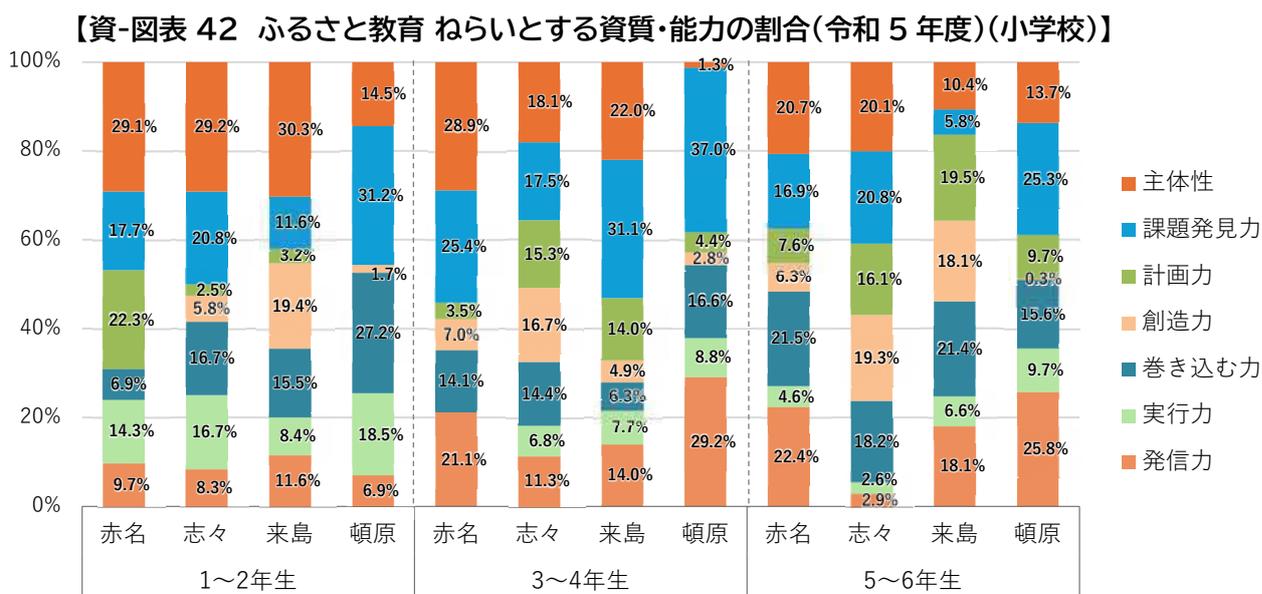
## 2.9 地域と学校のつながり

### ① ふるさと教育

ふるさと教育の単元を科目別にみると、小学校 1～2年生では、いずれの学校でも総合の時間が半分以上を占めている。3～4年生、5～6年生では学校ごとに科目の傾向が異なり、来島小学校、頓原小学校では他2校に比べてふるさと教育の時間数が多い傾向がみられる。

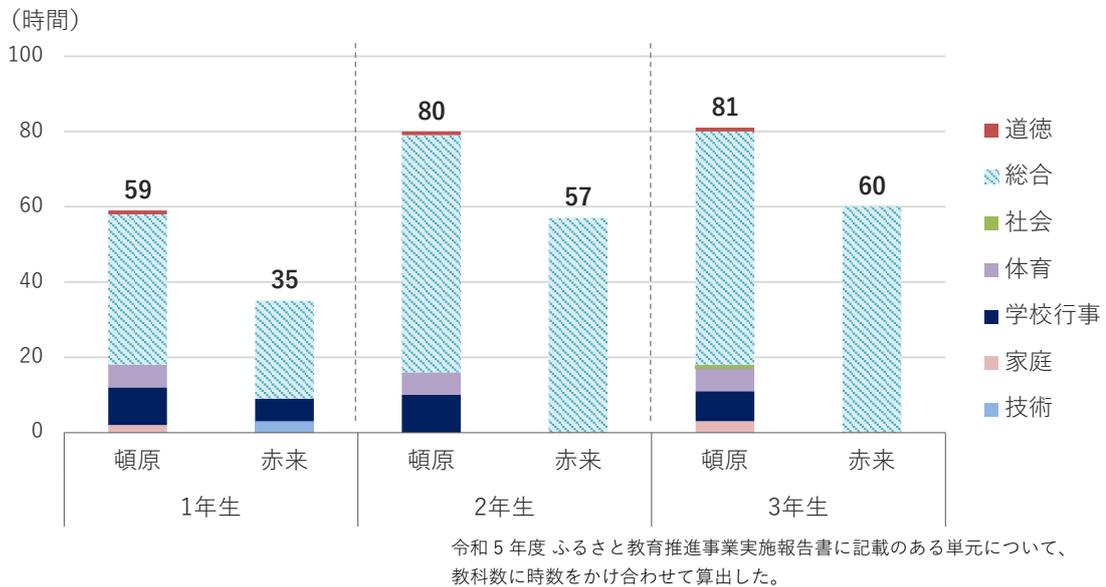


ふるさと教育の取り組みを学校及び学年別で見ると、各資質・能力に取り組む割合は学校・学年ごとに状況が異なる。



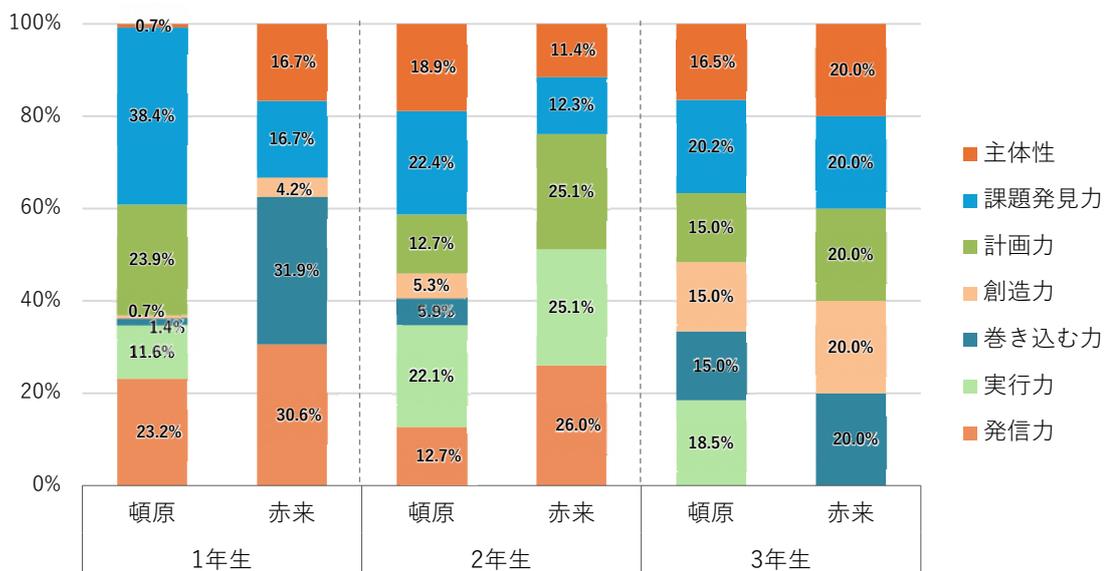
中学校では、全学年で総合が最も多く、赤来中学校に比べて、頓原中学校でふるさと教育の時間が多い傾向がみられる。

【資-図表 43 ふるさと教育 教科・領域別時間数(令和 5 年度)(中学校)】



ふるさと教育の取り組みを学校及び学年別で見ると、2校とも 1、2 年生で「発信力」に取り組んでいる。頓原中学校では全学年で「実行力」に取り組んでいるが、赤来中学校では 2 年生のみで取り組んでいる。

【資-図表 44 ふるさと教育 ねらいとする資質・能力の割合(令和 5 年度)(中学校)】



令和 5 年度 ふるさと教育推進事業実施報告書に記載のある単元について、ねらいとしている資質・能力に時数をかけ合わせて割合を算出した。

出典：飯南町教育委員会

## ② 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）

飯南町では、地域人材を活用した「ふるさと教育」を数多く実施しており、学校評議員会<sup>8</sup>を実施し、学校の経営方針を伝えるとともに評価を受けている。

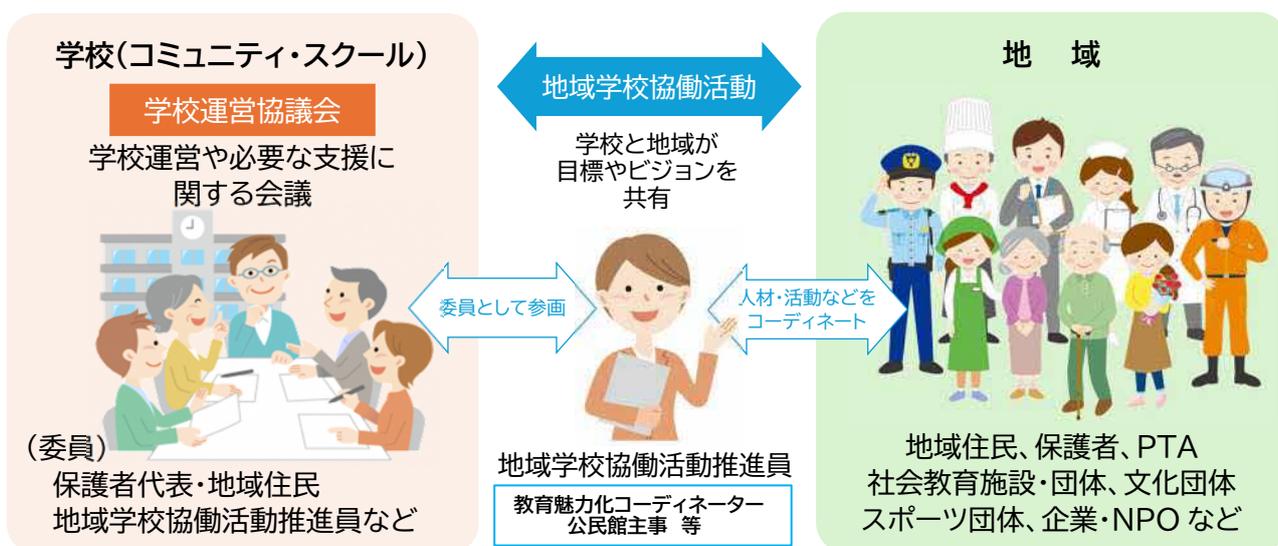
公民館を中心に、学校の教育課程以外の学習活動も充実しており、地域と学校の連携・協働の土台ができつつある。

一方、急激な社会の変化に伴い、学校や地域を取り巻く課題はより一層高度化、複雑化しており、これからの子どもたちは、他者と協働しながら、答えを導き出すそのような世界を生きていくことが予想され、自らが地域を創っていくという主体的な「人づくり」がさらに重要となる。

そうした中、学校と地域が一体となって子どもたちの成長を支えていくため、飯南町では令和5(2023)年度に志々小学校及び赤来中学校にて学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の取り組みを先行的に導入した。

コミュニティ・スクール…学校運営協議会を設置した学校のことであり、学校の運営を学校と地域が一体となって取り組むための仕組み

【資-図表 45 地域学校協働活動のイメージ】



### 学校運営協議会の主な役割

- ・校長が作成する学校運営の基本方針を承認する
- ・学校運営に関する意見を教育委員会又は校長に述べるができる
- ・教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べるができる

<sup>8</sup>学校評議員会:地域住民等の学校運営への参画の仕組みを制度的に位置づけるものとして平成12年に導入された制度であり、校長の求めに応じ、学校運営に関し、保護者や地域住民等の意向を把握し反映することができる仕組みである。

## 【令和5(2023)年度の取り組み】

### 志々小学校の取り組み

- ・公民館主催のグランドゴルフ大会への参加(令和5年10月)
- ・地域住民による学校図書室の本棚の製作、設置(令和5年10月)



### 赤来中学校の取り組み

- ・来島地区で開催された夏祭りに生徒がスタッフとして参加(令和5年8月)
- ・PTA 親子講演会の実施(令和5年10月)  
講師:竹下和男氏 テーマ:「弁当の日と子育て」

### 飯南町教育委員会の取り組み

- ・研修会の実施(令和5年7月)  
小中学校の教職員を中心に100名超の参加。文部科学省 CS マイスター福田範史氏を講師に迎え、「学校と地域の連携・協働」をテーマに学校運営協議会制度のしくみや役割について解説を受けた。

## 【令和6(2024)年度の取り組み】

### 全ての小・中学校の取り組み

- ・学校運営協議会(コミュニティ・スクール)のビジョンや目標を設定し、具体的活動を開始。
- ・各学校だより、公民館だよりを通じて、コミュニティ・スクールの取り組みを広報。

### 飯南町教育委員会の取り組み

- ・研修会の実施(令和6年9月)  
学校運営協議会委員を対象に、島根大学大学院教育研究科の大野公寛氏を講師に迎え、「コミュニティ・スクールの可能性」をテーマに研修を深めた。
- ・町広報やチラシを活用した広報活動

### ③ 地域学校協働活動

令和6(2024)年度には、全ての小中学校にて学校運営協議会を導入し、地域学校協働活動と両輪で進めていくことを今後の方針としている。飯南町では既に素地があるものの、より当事者意識を高めるために、中学校の教育魅力化コーディネーターと公民館主事に地域学校協働活動推進員を委嘱し、学校と地域をつなぐ役割を担っていただくこととしている。

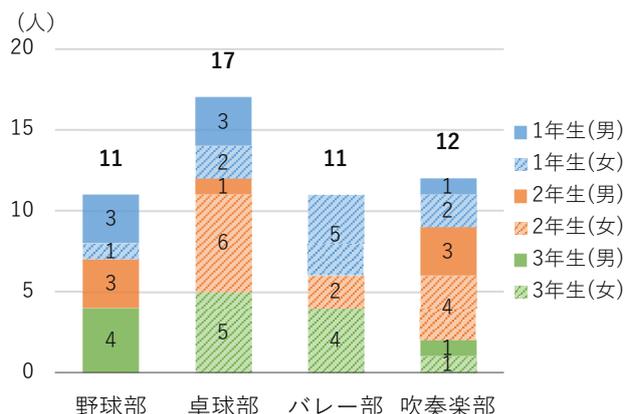
また、今後はより幅広い地域住民の参画が課題となる。

#### ④ 部活動

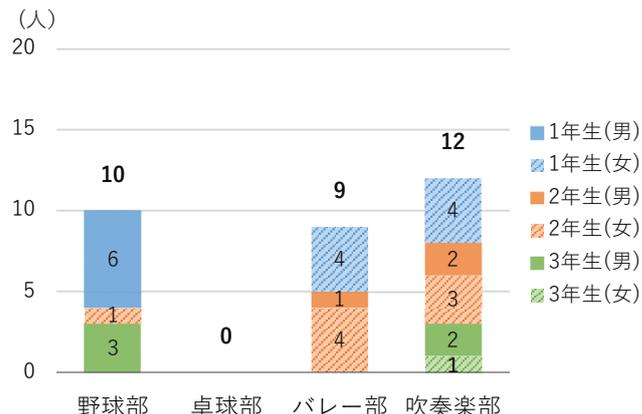
各部活動の生徒数は、赤来中学校では卓球部が最も多く17人、頓原中学校では吹奏楽部が12人と最も多い。また野球、バレーなど団体競技では合同チームを編成せざるを得ない状況もある。

指導者は、赤来中学校では外部指導者が8人おり、卓球部では6人中3人、吹奏楽部では7人中4人が外部指導者となっている。頓原中学校では外部の指導者がいない状況である。

【資-図表 47 赤来中学校 部活動別生徒数】

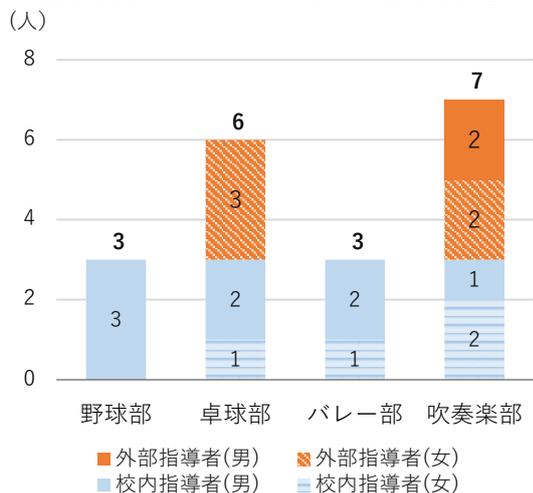


【資-図表 46 頓原中学校 部活動別生徒数】

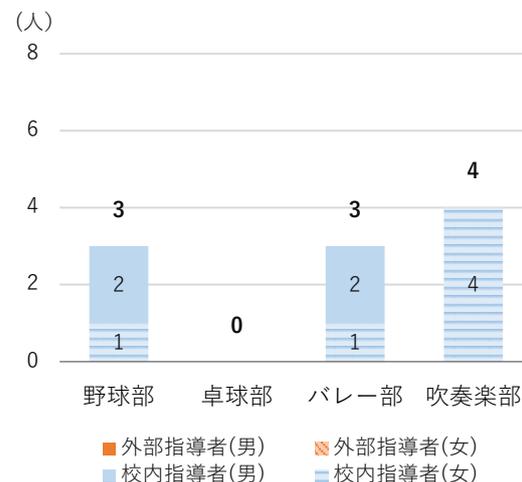


出典：飯南町教育委員会（令和6年5月時点）

【資-図表 49 赤来中学校 指導者数】



【資-図表 48 頓原中学校 指導者数】



出典：飯南町教育委員会（令和6年5月時点）

## 課題⑦ 地域とのつながり

飯南町では、学校・家庭・地域が相互に連携・協働し、豊かな人間性を育むために生命地域教育が推進されている。小中学校での「ふるさと教育」で地域のひと・もの・ことを活用した学習を通して、子どもたちの郷土愛が育まれている。

ふるさと教育の取り組みについては、中学校2校の間でも方針や時間にばらつきがある。中学校を再編する場合には、各学校の方針をすり合わせ、調整していくことが必要である。

学校と地域が一体となって子どもたちの成長を支えていくため、学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の取り組みが令和5(2023)年度から志々小学校及び赤来中学校で導入され、令和6(2024)年から全ての小中学校に導入されている。今後は各地域や学校での取り組みの浸透・定着が課題となる。

部活動では、文部科学省から示されたガイドラインにより、地域の実情に応じて可能な限り早期に学校部活動の地域移行を進める」よう方針が示されているものの、地域での指導者確保が課題である。

今後は学校運営協議会(コミュニティ・スクール)や部活動の指導者確保を含め、より幅広い地域住民の参画が課題となる。

## 3 意見収集

### 3.1 中学校及び高等学校における意見収集

中学校 2 校及び高等学校の要約学習にて、「中学校の再編に賛成か反対かとその意見」「学校や行政にもとめるもの」について意見出しを行った。

#### 【要約学習プログラム】

1. 講師  
飯南町教育委員(元赤来中学校長) 烏田勝信氏
2. プログラム
  - ① 学校の適正規模と統合について(要約学習)
  - ② 飯南町教育環境基本方針について(飯南町教育委員会教育長)
  - ③ 討論「中学校の再編に賛成か反対かとその意見」
  - ④ 討論「学校や行政にもとめるもの」
  - ⑤ まとめ要約

#### ① 頓原中学校

実施日:令和 6 年 7 月 17 日(金)

対 象: 1~3 年生



#### ② 赤来中学校

実施日:令和 6 年 7 月 4 日(木)

対 象: 3年生



#### ③ 飯南高校

実施日:令和 6 年 10 月 11 日(金)

対 象: 1年生



資-図表 50 頓原中学校意見集約 一覧表

大項目	メリット		デメリット		行政・学校に求める事	課題
	小項目	生徒からの意見	小項目	生徒からの意見	生徒からの意見	
学校生活、人間関係について	人数の増加にぎやか	・人数が多いと楽しい ・にぎやかになる ・人数が増える	環境の変化、新しい環境に馴染めない	・環境の変化に馴染めない ・人間関係の不安 ・現在の友人関係が変わると思うと不安 ・先生が変わって授業が分からなくなる ・中学校生活に慣れたのに、また慣れないといけない ・知らない人とはしゃべりたくない ・先生と生徒の関係が崩れる ・不登校の人が行きにくい	・学校が統合したら困ることはないのか ・統合には賛成だが、2学級以上はいや ・統合は2組までできるからうれしい ・学校が混ざったら困ることがあるのでは ・人間関係が不安 ・知らない人たちとの交流の時間 ・生徒もエアコンがつけられるようにしてほしい ・生徒の意見も聞いてほしい ・学校の意見 ・生徒の意見を6割にしてほしい(役場) ・給食を増やす ・学校の人数が多いと、給食の余りが出てしまう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の不安解消のため、生徒一人一人に寄り添った対応</li> <li>・勉強のペースが異なる子どもへの対応</li> <li>・生徒の特性や人間関係を考慮した学級クラス編成の検討</li> </ul>
	行事の規模が大きくなる 楽しくなる	・人数が多い方が行事が楽しくなりそう ・学校行事の規模が大きくなる				
	友達・仲間が増える	・他校の子と仲良くなれる ・仲間、友達が増える ・関わりが深くなる ・学級が楽しくなる ・同級生がたくさん増える ・コミュニケーション力を上げることができる				
学習環境について	学習の幅が広がる	・ICT教育 ・集団行動ができる ・グループ学習が多くなる ・能力をより伸ばすことができる	授業・勉強への影響	・授業時間が減る ・勉強についていけない ・1人1人に教えられる時が減るのではないか		
	教育がスムーズになる	・複式学級にしなくてもよくなる ・修学旅行が行きやすい ・保小中高一貫教育	人数が多さまとまりにくい	・人数が増えて大変 ・まとめるのが大変そう		
	色々な意見が聞ける	・児童が多くなると色々な意見がある ・赤来との統合はいい刺激になりそう				
部活動・伝統について	部活動が増える 維持ができる	・部活動が増える ・維持ができる ・部活動の迫力が増す(吹奏楽部) ・部活などが行きやすい	各中学の良さ、伝統が無くなる	・それぞれの学校の良さや伝統を失うことになる ・小さい学校だからこそできることもある ・制服が変わる ・校則がぐちゃぐちゃになる	・伝統はどうするのか ・伝統を残したりしないと今までの意味がなくなる ・伝統行事などの対策 ・制服が変わるのは嫌 ・校則の見直し ・校則は生徒で決めたい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各中学の特色、伝統を生かす取り組み</li> </ul>
交流活動について	交流が増える	・地域ぐるみで交流できる ・高校生との関わりが増す	交流活動の減少	・小学校との関わりが減る ・小学校との交流が少なくなる	・頓原と来島、志々と赤来のように普段しない小学校と交流をする ・統合しても、しなくても交流を今まで通り大切にしてほしい→学校同士でも保小中高地域 ・学校が1つになるなら、めっちゃ交流したらいいと思う ・統合は町全体で仲良くなれるメリットがある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保小中高の学校同士での交流活動の継続</li> <li>・普段交流が少ない小学校同士での交流の機会</li> </ul>
教職員について	教員の負担軽減	・教頭が担任になり、生徒も先生も負担になるから ・教員不足解消 ・先生の負担が減る	教員の負担増	・先生の仕事なくなるのではない	・先生も歩いてきてほしい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の適切な配置、負担軽減</li> </ul>
学校配置、学校再編について			校舎の場所、設備	・校舎が拡大する ・学校の位置はそのままがいい ・学校の規模と人数が合わない ・学校を取り壊さないでほしい ・お金がかかる	・全学校を集めるのか ・今のところの方針 ・どこに学校を置くのか ・どこの学校に集まるのか ・残った学校は再利用するのか ・坂道はやめてほしい ・トイレを増やしてほしい ・他の学校はどうするのか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校統合に向けた場所や校舎整備の検討</li> <li>・中学校統合に伴い、残された校舎の利活用</li> </ul>
通学について			通学が困難	・登下校が大変 ・バス通が増える ・帰りが遅くなる ・バスになり、通学に1時間かかる子もいる ・通学距離が長い ・親へ負担や不安をかける	・バスの手配、時間、交通の便 ・バスの時間と本数 ・保護者の都合 ・通学路はどうするのか、坂道は避けてほしい ・通学路の確保、通学方法 ・どこに集合するのか ・雪の時期はどうするのか ・登下校の時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路や集合場所の検討</li> <li>・スクールバスの検討</li> </ul>

資-図表 51 赤来中学校意見集約 一覧表

大項目	メリット		デメリット		行政・学校に求める事	課題
	小項目	生徒からの意見	小項目	生徒からの意見	生徒からの意見	
学校生活、人間関係について	人数の増加にぎやか楽しそう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人が増える、できることが増える</li> <li>・人数が多いと楽しい、毎日が楽しくなる、おもしろくなる</li> <li>・今よりもっと騒がしくなるかもだけ楽しそう</li> <li>・にぎやかで楽しそう</li> <li>・クラス替えや席替えができる、楽しみ</li> </ul>	環境の変化、慣れない環境への不安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あんまり話したこと無いから少し不安、仲良くできるか不安</li> <li>・知らない人で混乱、慣れなくて登校できなくなる人がいるかも</li> <li>・人との関わりが少ないから直ぐには慣れることができない</li> <li>・あまり大人数が好きではない</li> <li>・仲間外れになる人も、いじめなどがおきる</li> <li>・仲良い人とあまり話さなくなりそう</li> <li>・今の友達と話すことが減るのか不安</li> <li>・人間関係が大変になるかもしれない</li> <li>・知らない人、なれない、話にくい</li> <li>・仲良くなれる人と仲良くなれない人がいる、仲間割れができる</li> <li>・困惑<ul style="list-style-type: none"><li>・どういう学校かわからない</li></ul></li> <li>・今のままのクラスが良い</li> <li>・先生が変わる</li> <li>・制服が変わるかもしれない</li> <li>・給食への準備が増えて大変</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しくして欲しい</li> <li>・生徒一人一人の事を見てほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の不安解消のため、生徒一人一人に寄り添った対応</li> <li>・勉強のペースが異なる子どもへの対応</li> <li>・生徒の特性や人間関係を考慮した学級クラス編成の検討</li> </ul>
	学校生活・行事が盛り上がる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が盛り上がる、行事が盛り上がる</li> <li>・体育祭や文化祭で人数多く、盛り上がる</li> <li>・昼休みが楽しい、遊ぶ人たちが多くなる</li> <li>・給食が楽しい</li> <li>・人口が増える見込みが今のところない</li> </ul>				
	友達が増える仲間ができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先輩や同級生とコミュニケーションを深めることが可になる</li> <li>・友達ができる、増える</li> <li>・もっと他の人と関わりたい、関わりが増える、他地域の子とも仲良くなれる</li> <li>・いつも話さない人ともふれあえる</li> <li>・学校に行き辛かった人が学校に行けるかもしれない</li> </ul>				
学習環境について	協力できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間ができる、協力し合う</li> <li>・得意なこととかを知れる</li> <li>・勉強を教え合える</li> <li>・クラスが増える 勉強の意欲</li> </ul>	授業への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生が一人一人に充てられる時間が少なくなる</li> <li>・勉強のペースが速い人と遅い人がいるから困る</li> <li>・人数が少ない学校の方が勉強しやすい人もいる</li> <li>・集団で動くときに遅くなる</li> <li>・人が多く授業が進みにくい、うるさくなる、勉強が進まない</li> </ul>		
	色々な意見が聞ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と違う意見を知れる</li> <li>・色々な意見が聞ける、言葉遣いや色々な人と交流できる</li> </ul>	人数が多さまとまりにくい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人数が多くて、色々な性格の人がいると話がまとまりにくい</li> <li>・話が通らなくなる</li> <li>・少人数でもみんなの意見が聞けて良い</li> <li>・すでに人が多い</li> <li>・今でも20人超える、生徒の人数を増やす</li> <li>・飯南高校でどうせ人が増えるから</li> <li>・学校でのトラブルが多くなる</li> <li>・学級が多くなりすぎる</li> </ul>		
	コミュニケーション力が高まる 社会交流の練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション力が高まる</li> <li>・社会交流の練習がスムーズに</li> <li>・大人数での団体行動をする力が高まる</li> <li>・社会に出て通用する、色々な人と生活出来る</li> </ul>				
部活動・伝統について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動が増える、部活動の人数が増える</li> <li>・練習しやすい、練習がはかどる、勝ちやすくなる</li> <li>・大会にも万全な状態でできる(合同だと練習が限られる)</li> <li>・合同チームの名前が赤頓チーム⇒飯南チーム 強そう</li> </ul>	各中学の良さ、伝統が無くなる		<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤来中と頓原中で学校の考えは異なるから、2年3年で統合されても生徒は困ってしまうと思った。</li> <li>・その学校だけの伝統、良さがなくなる</li> <li>・地域ごとの魅力がなくなる</li> <li>・赤来中は赤来中の良さがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の種類を増やしてほしい</li> <li>・部活動のユニフォームを新しくしてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各中学の特色、伝統を生かす取り組み</li> </ul>
交流活動について			交流活動の減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修学旅行などで久しぶりに会えることが楽しみだから</li> <li>・交流をするときにどんなことをしたらいいか考えられる</li> <li>・毎日関わると当たり前になる、年1で会うからこそ協力できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飯南高校との交流を増やす</li> <li>・行事をもっと盛り上がる工夫をしてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校など他校との交流機会の増加</li> </ul>
教職員について	先生の負担軽減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生の数が増えて、少し負担軽減</li> <li>・給食センターが楽</li> </ul>	教員の負担増	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生の人数減っている</li> <li>・先生に負担がかかる</li> <li>・人数が増えて先生が大変</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生を増やしてほしい</li> <li>・先生の割合を赤中と頓中半々にしてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の適切な配置、負担軽減</li> </ul>
学校配置、学校再編について	極小規模校でなくなる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・極小規模校としてみられない</li> </ul>	統合に向けた検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色々やっつけていかないといけないから町の人大変</li> <li>・統合するのにも色々考えないといけないから大変</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合を急がなくて良い</li> <li>・焦らずにゆっくりと考えてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校統合に向けた計画的な検討が必要</li> </ul>
			校舎の場所、設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこに建てるのかはっきりしてほしい</li> <li>・学校が狭くなる、教室にみんな入らない</li> <li>・使わない学校はどうするのか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合するなら学校を大きくして欲しい</li> <li>・学校を新しく<ul style="list-style-type: none"><li>・校舎をきれいに</li></ul></li> <li>・学校敷地、教室を広く<ul style="list-style-type: none"><li>・トイレをきれいに</li></ul></li> <li>・学級を増やしてほしい</li> <li>・規模<ul style="list-style-type: none"><li>・学校の位置 遠すぎないところ</li></ul></li> <li>・来島に学校をつくってほしい</li> <li>・中学校のエレベーターを小学校にも</li> <li>・学校はそのままが良い、また使えるのにもったいない</li> <li>・思い出がある</li> </ul>	
通学について			通学が困難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学が難しい、通学が大変</li> <li>・場所が遠いのでスクールバスに</li> <li>・家から遠くなる、学校の距離が遠くなる</li> <li>・登下校の事を考えると今のままが良い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学の整備、スクールバスを出してほしい</li> <li>・行き帰りを楽にしてほしい</li> <li>・遠さ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学支援(遠方の方への対応)</li> </ul>
予算について			財政的負担増	<ul style="list-style-type: none"> <li>・費用がかかる</li> <li>・バスなどのガソリン代もだいぶかかる</li> <li>・新しく建てて飯南町の予算を減らすくらいだったら、その建てる費用でPRによる呼び込みや他の事に充てられると思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金</li> <li>・資金</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算確保</li> <li>・予算配分の検討</li> </ul>
その他			子どもの減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てしている人の流出</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・親の負担軽減</li> </ul>

資-図表 52 飯南高校意見集約 一覧表

大項目	メリット		デメリット		行政・学校に求める事	課題
	小項目	生徒からの意見	小項目	生徒からの意見	生徒からの意見	
学校生活、人間関係について	生徒、クラスの増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人数多くなる、人数増える</li> <li>・学級数が増える、学校全体の人数が増える</li> <li>・クラスメイト増、1学年2学級以上とれる</li> <li>・複式なくなる ・高校へ入学する人が増える</li> </ul>	人間関係、環境の変化への不安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合併したくない人もいる</li> <li>・いまさらなれる？ ・とまどう</li> <li>・友達の名前覚えるのが大変</li> <li>・少人数から大人数に変わるのに抵抗がある</li> <li>・慣れていた環境が一気に変わってしまう</li> <li>・今のままでいい人がいるかもしれない</li> </ul>	<b>【定期的なクラス替え】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスを増やす</li> <li>・1年ごとのクラス替え / クラス替えを毎年</li> </ul> <b>【交流の機会、場所づくり】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流できる場所（遊具などをつくる）</li> <li>・始めは交流会 / 仲を深める取組み</li> <li>・それぞれの生徒と仲良くなれるような時間をつくる</li> <li>・学校同士の交流を増やしてほしい / 他の学校との交流</li> </ul> <b>【不登校生徒への対応、行きやすい学校づくり】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校の子への配慮 / 不登校の子を無くす（不登校の子にも行きたくない理由がある。それを無くす）</li> <li>・誰でも行きやすい学校にしたら？（不登校解消）</li> <li>・学校に行きやすくするため楽しめることがしたい</li> </ul> <b>【トラブル対応】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の安全（いじめとか）</li> <li>・支援学級も各学年になじませて→他の子に注目される</li> <li>・いじめ等のトラブルの解決、予防 （人数が増える=トラブルが増える）</li> <li>・友達関係（いじめ） / いじめや登校時間の対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校同士、生徒の交流の場づくり</li> <li>・不登校生徒に対するきめ細かな対応</li> <li>・不登校とならないための学校づくり</li> </ul>
	仲間ができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さいころから仲良くなれる</li> <li>・新しい出会い ・友達も増える</li> <li>・新しい人とふれ合える ・関わりが増える</li> <li>・にぎやかでたのしい、学校が楽しくなる</li> <li>・活気が出てくる ・交流が深まる、にぎやかになる</li> <li>・生徒同士の交流→親の交流</li> <li>・人間関係の充実、社会性</li> <li>・人数増えたら楽しい、飯南町の魅力!?</li> </ul>	統合による人間関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループができてしまう（赤来民、頓原民）</li> <li>・決まった人だけの集まりができるかも</li> <li>・統合による友達関係</li> <li>・中学が同じが良いが、小学校も同じにしないとみぞができる</li> <li>・町外・県外から高校に来る人は1つの中学校の人が多いとこの輪に入りにくいかもしれない</li> <li>・たくさんいるとどうしてもなじめない子が出てくる</li> <li>・いじめが起きるかも ・新しい友達→いじめも…</li> <li>・町どうしのいざこざ</li> <li>・地域差（学校風、地域別の町民の性格）→なじめない</li> </ul>		
学習環境について	学校集団として	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校集団で育てられた人数が多い方が良い</li> <li>・集団で勉強できる→友達関係が深まる（協力性などもつく）</li> <li>・多くの生徒で学校生活を送ることで集団生活が身につく</li> <li>・生徒が多いと社会性が付く ・校内での人材が増える</li> <li>・仲の良さ、協力心 ・協力の大切さをさらに知れる</li> </ul>	少人数での教育の良さもある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1人に向き合える ・1人1人がより輝ける</li> <li>・小人数だからの強み減</li> <li>・少人数だから受けられることもある</li> <li>・人数が少ないからこそたのしかった。</li> <li>・少人数という良さがなくなる</li> <li>・勉強とか人数多くなると聞きにくくなるから</li> </ul>	<b>【一人一人に寄り添った教育】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人を大切に教育するべき</li> <li>・人数が多くなっても個々をきちんと見る</li> <li>・1人1人に目を向ける教育</li> </ul> <b>【授業進度への配慮】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の進度が違いうまく合わせてほしい</li> <li>・習熟度指導の導入（中学校で）</li> </ul> <b>【ICT教育の充実】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校リモートでやっても楽しそう（ICTを活用していく、タブレットで）</li> <li>・ICTを使った授業を増してほしい</li> </ul> <b>【高校との関わり増加】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の時間を増やして高校との関わりを増やす</li> <li>・高校との関わりを増やしてほしい</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業がたのしくなるような授業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1人に寄り添った教育環境</li> <li>・授業進度への配慮</li> <li>・ICT教育の充実</li> <li>・高校との連携強化（関わりの増加）</li> </ul>
	多くの人と関わる、多くの価値観、意見に触れられる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人数が多い方が良い!!→いろんな意見</li> <li>・より人が多いといろんな事が学べる</li> <li>・たくさんの人とふれ合える（多様性や色々な人の）</li> <li>・色々な個性の人と関わりが持てる</li> <li>・たくさんのお考えが出る ・多くの価値観にふれられる</li> <li>・新しい環境にふれる（早いうちから）</li> </ul>				
	高校との連携	今よりもっと連携がとれる。（中高の）				
	授業進度が合う	・頓原中、赤来中で授業進度を合わせることができる	授業進度	・頓原中、赤来中で授業進度が合っていないため調整が必要		
部活動行事伝統について	行事、活動の幅が広がる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の幅が広がる ・できることが増える</li> <li>・生徒のやりたいことが増えるかも</li> <li>・行事が増える ・行事では大規模</li> <li>・人数が増えてイベントなど可能性が広がる</li> <li>・人が増える→できることの幅も広がる</li> <li>・他の地域の良さも知れる ・体育祭 組が多い</li> <li>・行事、部活動、規模大</li> <li>・新しい文化が生まれる</li> </ul>	各学校の伝統、文化、良さがなくなる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの伝統なくなる / 伝統が守られない</li> <li>・昔からの学校がなくなってしまう</li> <li>・もったいない、伝統とは？そんな簡単に。</li> <li>・赤来と頓原の意見の食い違い→赤来の伝統、頓原の伝統どちらに付けば？</li> <li>・それぞれの学校の文化が無くなる</li> <li>・自分は全校が23人だけの小学校だったから分かるけど、その小学校の昔からの風習がきえてしまったりする。</li> <li>・それぞれの学校の良さがなくなるかも</li> <li>・その学校ならではのよさがあるから</li> <li>・中学校・小学校ならではの校歌をのこした</li> <li>・学校ならではの行事や関わりがなくなるかもしれない</li> <li>・なくなった学校の存続</li> <li>・統合すると問題も起こる（制服とか）</li> <li>・制服は？→新しく合わせる</li> <li>・制服変わる</li> </ul>	<b>【各学校の伝統（行事、校歌等）を残す】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの伝統文化を残す / 伝統はそのままに、行事も</li> <li>・その学校ならではのよさを残したい（例えば校歌やその学校による行事等） / 各学校の文化を残してほしい</li> </ul> <b>【行事の充実】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事を増やしたい（各学年で遠足）</li> <li>・色々な行事→大人数ならではの / 同じ行事ばかりしないで</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校の伝統（行事、校歌など）を活かす取組</li> <li>・学校行事の充実</li> </ul>
	部活動の充実 部員の増加 練習のしやすさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動活性化 / 部活が楽しい、充実</li> <li>・部活動の維持ができる / 部活を安心して行える</li> <li>・部活動数多くなる / 部員が増える</li> <li>・部活動の幅が広がる→技術が向上する</li> <li>・部活が合同チーム→移動が大変</li> <li>・部活のチームやりやすくなる / 部活動(チームスポーツ)</li> <li>・部活動が合同だから一緒に練習できる</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の充実、部費の増加</li> <li>・部活にもっと力を入れてほしい</li> <li>・部活動を増やす / 部活の増加</li> <li>・それぞれの部費を上げてほしい</li> </ul> <b>【部活の指導者の増加】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活の指導者のボランティアの方を集めてほしい</li> <li>・部活の外部コーチを平等にして→技術に差が出る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の充実</li> <li>・部費等の検討</li> <li>・部活動における外部指導者の確保</li> </ul>	
教職員について	教員の負担	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の負担減、教員不足解消</li> <li>・先生もたくさんいるから負担が減る</li> <li>・教員・生徒・高校生の確保のため→教員の負担減</li> <li>・先生もそのままいい / 複式による教員の減少が無い</li> <li>・中学校は高校との連携が取れる</li> </ul>	教職員の配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生側の負担増 ・先生に負担がかかる</li> <li>・先生を増やす必要</li> <li>・校長先生は？</li> <li>・校長先生2人（先生問題）</li> </ul>	<b>【教職員の増員】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生を増やしてほしい</li> <li>・片方の学校の教員をもう片方に入れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の配置検討</li> </ul>

大項目	メリット		デメリット		行政・学校に求める事	課題
	小項目	生徒からの意見	小項目	生徒からの意見	生徒からの意見	
予算について	財政的負担	・税金がうく ・電気代が減る	校舎の建設費、バス維持費	・お金がかかる ・建物、お金 ・スクールバスにすると、ガソリン、バス本体お金が余計に掛かる→難しい	【行政による財政的支援】 ・お金の増加 / 積極的な支援 ・盛りあげたいなら金だして	・財政的支援
学校配置、校舎整備について			学校の配置の検討	・場所は？→校舎費用 ・どこに建てるか（土地無？） ・学校をどこに置くか ・小学校も同じにしないと溝ができる ・中学校は一緒・小学校は一緒ではない→差	【校舎の位置の検討】 ・校舎の位置を最適に ・学校立てるなら位置考えて ・場所？ 【小学校統合の検討】 ・小学校も一つにしてほしい（みぞができない）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎配置の検討</li> <li>・校舎の活用策の検討</li> <li>・校舎の新設、建て替え、設備改修の検討</li> <li>・校舎のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化の推進</li> </ul>
			校舎の検討 廃校の活用方法	・頓中、赤中、どちらの学校を使う？ ・建築物は建て替え、もっと良い方法はないのか ・解体は？（費用の面） ・空き地状態に ・学校の校舎がなくなるかも ・校舎をどうする / 廃校した学校を何に使うか ・自分の母校が無くなるのは悲しい	【残された校舎の活用】 ・これまで使っていた学校をどうするのか（何かに使える？） ・それともなくすのか（無くすお金はどこから？） ・片方は解体しなくていいよね？→解体するとお金がかかる ・学校を残す、使う / 使わない学校の使い道が知りたい ・思い出のある校舎そのままにして / 取りこわさないで！ ・<統合>もとの赤中・頓中をイベント会場→開催	
				・教室が足りるか、教室が足りないかも ・物の移動が大変	【校舎の新設、改装】 ・新しく学校を作ってほしい→そのためのお金欲 ・安全なきれいな設備 / 改装工事してほしい ・校舎の復旧に金出してほしい / お金→校内設備 ・もっと広い学校 / 大きくする、機能の拡大 ・校舎大きく 3階 ・キレイな校舎をたてる / 校舎建て替え ・空いていて使われていない教室を無くして →見ていてさみしい、空いていると気になる ・トイレなど施設をきれいにしてほしい（エアコンも） ・トイレを洋式に、ロッカーに鍵を ・インターネットの回線を良くしてほしい 【校舎のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化】 ・ユニバーサルデザイン化 ・エレベーター 怪我した人用に / バリアフリー化しようよ！ 【通しやすい場所への設置】 ・坂の上にあるのをやめてほしい / 坂道ゆるく！ ・（建物の位置）通しやすいところにしてほしい ・ちょっと低い位置に→登校しやすく	
通学について			通学時間、移動距離の長さ	・移動距離が遠い→通学に時間がかかる / 通学時間が長い ・通学が不便、行き来が大変 / 通学が大変（バス） ・登校が難しい ・通学が大変 事故・動物の被害 ・時間とかも合わせないといけなくなるから大変 ・移動時間、自分も 40 分かかる ・家からかよえない（時間が長い） ・場所によって時間の偏りが出る ・家からより遠くなる可能性がある（交通手段が少ないから） ・外側の住民は遠くなる ・大変→通学長い→朝早くなる、体力？ ・生活リズムが乱れる ・通学時間やコストが ・移動の問題、バス少ない / 交通手段が少ない ・乗り物酔いの人はどうする？→運転手の負担×	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと交通手段があると良い / 交通の便良さ</li> <li>・楽に登校できるようにしてほしい（移動が不便）</li> <li>【バスの本数、便数増加】</li> <li>・バスの全日便の数を増やしてほしい、バス便増加</li> <li>・バスは絶対みんなが乗れるように、数や時間を増やす</li> <li>・バスを増やして（初めに乗る子がずっと乗っている）</li> <li>・無料バスの便数を多く / 交通手段増（バスの本数など）</li> <li>・バスを増やしてください、小さい車で良いのでお願いします</li> <li>・志々方面のバスを増やしてほしい（通学のこと考えてほしい）</li> <li>・スクールバスで送迎してほしい / スクールバスを多く等</li> <li>・地域による格差の軽減（例えば通学距離の違いならバス等の交通）</li> <li>・下校の時間がひどい、デマンドの時間→5:00、2:00 くらい の便を出してほしい</li> <li>【登下校時間の調整】</li> <li>・朝礼遅く！ / 朝、授業が始めるのをおそくする</li> <li>・登校に時間がかかるから始まる時間を遅くする</li> <li>・夜も遅くなりすぎない</li> <li>・登校時間を何とかしてほしい（登校 40 分）</li> <li>【送迎の待ち時間】</li> <li>・生徒が親の向かえを待てる場の作り（利用しやすい）</li> <li>【通学路の整備】</li> <li>・通学路の改善 / 道路など通学路の整備→より早く</li> <li>・高速道路つくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールバスの本数、便数の充実</li> <li>・地域格差の軽減</li> <li>・登下校時間の検討</li> <li>・送迎の待ち時間への対策</li> <li>・通学路の整備</li> </ul>

大項目	メリット		デメリット		行政・学校に求める事
	小項目	生徒からの意見	小項目	生徒からの意見	生徒からの意見
保護者について			保護者の負担、不安が増える	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校と家が遠い人は何かあった時にすぐに行けない</li> <li>親の負担（通学、いじめなど）</li> <li>バスが少ない、親の負担増・保護者の負担が増える</li> <li>親が反対する？！</li> <li>親が不安</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>親の意見も取り入れる</li> <li><b>【通学時の安全対策】</b></li> <li>小学生（遠い登校する人）⇒安全になる設備、対策</li> <li>生徒の安全確保 / 親が安心して学校に子どもたちを行かせられる環境をつくることが第一</li> <li>各バス停にボランティア交通誘導員を配置</li> <li>朝が早くなる、交通事故→心配</li> <li><b>【保護者への財政的支援】</b></li> <li>自動車通学→交通費を支援</li> <li>もし制服が変わる→お金負担してほしい</li> <li>制服が高い、兄弟が多い、出費が…</li> </ul>
その他					<ul style="list-style-type: none"> <li><b>【生徒の意見を取り入れる】</b></li> <li>生徒の要望を前向きに検討する</li> <li>→これが成功したことをアピールする</li> <li>先生だけで学校のルールを決めるべきではない、生徒の意見も聞くべき（昼休み時間の短縮など）</li> <li>（提案）意見をおためしで実際にやってみる機会がほしい</li> <li>給食をおいしく</li> <li>校則ゆるくしてほしい</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li><b>【学校の魅力化、魅力の発信】</b></li> <li>魅力のアピール、人が来るような魅力をもっと出す（県外からみてこよと思えるような）</li> <li>人をふやすならどこかとびぬける!!（制服がかわいい!!私服にするとか!!）</li> </ul>	
				<ul style="list-style-type: none"> <li><b>【学校周辺の充実】</b></li> <li>若者が楽しめる場所を作ってほしい</li> <li>店を増やしてほしい（学校のすぐ下等） / コンビニ増やす</li> <li>外灯を増やして</li> </ul>	
			人口の流出	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒数が減少→活気がなくなる→たくさん生徒がいる方がいい→引っ越しする人も!?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>移住者を増やす政策をもっと積極的にしてほしい</li> <li>空き家や土地を改良、住める場所を作る</li> <li>町としての現実的な強みをもっと売り出す（周知率をあげる）</li> <li>田舎にしかできない所を他の県から意見を借りる</li> <li>財政を良く、働き口を増やす</li> <li>サービス業も力を入れたほうが良い</li> <li>人数を増やしたいなら人を選ばないといけない</li> </ul>
		その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>合併しても大変なことが多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>こういう問題が起こらないようにしてほしい</li> <li>少子化をそもそもなくす</li> <li>物価上</li> </ul>	

課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>通学時の安全対策の充実</li> <li>保護者への財政的支援（交通費、制服代等）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の意見を学校運営に取り入れる</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の魅力の発信</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校周辺のまちづくり</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>移住、定住の促進（住まいの充実、情報発信、働く場の充実など）</li> </ul>

### 3.2 町政座談会における意見収集

各地区で開催した町政座談会において、教育環境基本方針について内容を説明の上、意見を伺った。

資-図表 53 開催日時・開催場所

地区	開催日時	開催場所
谷地区	令和6年7月8日(月) 19時00分～20時30分	谷笑楽校
赤名地区	令和6年7月17日(水) 19時00分～20時30分	赤名農村環境改善センター
来島地区	令和6年7月24日(水) 19時00分～20時30分	来島交流センター
頓原地区	令和6年7月29日(月) 19時00分～20時30分	ふれあいホールみせん
志々地区	令和6年7月31日(水) 19時00分～20時30分	さつき会館

資-図表 54 町政座談会意見集約 一覧表

大項目	小項目	町民からの意見	課題
計画について	計画全体について	・どれが正解か分からない問題ではあるが、ひとまず基本方針が決まったので、それに基づいた計画をしっかりと策定して今後の教育環境の充実に取り組んでもらいたい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本計画の策定による教育環境の充実</li> <li>・住民や保護者、子ども達に向けた説明及び意見集約、意見への対応</li> </ul>
	説明・意見収集	・保護者の方にしっかりと説明されて進めて下さい	
		・住民、子どもの意見をきいてみることもよいことだと思います。子ども(意見をきくための)の対象年齢は設定が必要だと思います。 ・子供人口の減少の為、やむをえない計画と考えるが、住民子どもたちからどの様な意見がでていのかそしてどう解決していくのか公開して欲しい	
教育環境について	学習環境	・子どもは大勢で遊べた方が楽しい、ですがその逆で少規模でも楽しいという子もいます。難しいところですが…。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人ひとりに合わせた対応、支援</li> <li>・中学校合併時の学習環境の充実</li> </ul>
		・中学校が合併した時に、生徒が学びやすい環境になるといいと思いました。	
		・塾をふやしてほしい等、安直な意見? 要望? もあった。率直な意見だがもっと色々考えていってほしいとも思ったが、これから高校で力をつけないといけないと感じた。	
	学校配置	・小学校は、できる限り 4 地区におけるようにと考えますが交通手段のかねあいが何とかなれば、旧町単位で合併してもよいのかなと思います	・小学校統合を視野に入れた配置検討
	通学の負担	・志々など町の端に住んでいる子どもの通学の負担がすごく大きいと思っています。中学校が合併した後、どこに中学校を置くかは、わからないですが、志々にある家を出てから来島に着くまで、1 時間弱かかるので、長距離通学をする子どもへの支援を充実させてほしいです。志々を例に挙げると、飯南病院まで出てバスを乗り変えて来島に行くのではなく、来島の農道を通して直で来島に行けるととても通学時間短縮につながると思います。このような対策を充実させるべきだと思います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長距離通学者への支援</li> <li>・バスのルート改善</li> </ul>
志々小学校の耐震調査について	・少子化の中で進めて行かなければならない。志々小の耐震調査、その後どうするのか?耐震工事をするとすれば、金額はかなり上がる。新築する方が良いと思うが	・志々小学校の耐震化や施設更新の検討	
教育の内容について	ふるさと教育	・中学校で、3年生は3期の後期に、地域の人のお話を聞く場があるが、卒業間近で、高校進路で、少しタイミングが早くなれば良いなと思います。また、町内だけでなく、このような場が増えれば良いなと思う。 ・2 年後半から学ぶ生命地域学の課題研究で、飯南町のことを好きになる生徒は増えていくと思います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域への愛着の形成のため、地域住民とのつながりの充実</li> </ul>
	電子メディアの使い方	・最近の小中学生のメディア機器の使い方について 1 メディアを使い始める年齢が早すぎる気がする 2 メディアから離れられない子が多い。 (例):塾の時間を待つ子がみんなで交流センターでゲームをしている) ゲームをするのであいさつをしてくれない。問題だと思います。 (本当は中高生のふれあいの時間だと思う)	・電子メディアに関する教育の充実
子育て環境について	学童保育	・学童保育に専門家を	・学童保育の人材確保
その他	人口対策	・小中学校の適正配置についても縮小は理解できますが人口増について積極的に取り組んでいただきたいと思います	・人口増加に向けた取り組み